

地域の高齢者生活・助け合い活動等に関する
アンケート調査結果報告書

函館市生活支援・介護予防体制整備事業

函館市生活支援コーディネーター

丸藤 競

平成27年12月

< 目 次 >

アンケート調査の概要	3
地域の高齢者生活・助け合い活動等に関する調査ご協力をお願い	4
地域の高齢者生活・助け合い活動等に関する調査票	5
アンケート記載者の概要	9
「調査結果」	
設問 (1) 普段からの町内で、高齢者や地域住民が集まったの活動の有無	11
設問 (2) ① どのような場所で、活動が行われているか。 ② どのような活動が、どれくらいの回数行われているか ③ その活動は、どなたが運営（主催）しているか	11
設問 (3) 高齢者や地域住民が集まる活動が「ない」理由	16
設問 (4) 高齢者や町内の住民が集まり活動できる場合は、必要か	16
設問 (5) ① なぜ、活動する場が「必要」なのか ② どのような活動が「必要」か	17
設問 (6) 高齢者や町内の住民が集まり活動できる場が「必要ない」理由	18
設問 (7) 普段から、町内で健康や介護予防のために気を付けていること	19
設問 (8) 町内の高齢者に対しての不安	20
設問 (9) 町内の高齢者は、日常生活の中でどんなことに困っているか	22
設問 (10) 支える側に参加してみたいと考えている方は、どれくらいいるか	23
設問 (11) どのような活動なら、支援活動に参加可能か	24
設問 (12) 今、あなたの町内会で行われている活動は100点満点中何点か	25
設問 (13) 100点満点にするためには、何が必要か	26

◆ アンケート調査の概要

1 調査の目的

地域資源および地域ニーズを把握し、地域の実情に応じた介護予防につながる事業・仕組みづくりを行うための基礎資料とする。

2. 調査対象

町会 185 (町会連合会加入 182、未加入 3)

函館市社会福祉協議会

地域包括支援センター 6か所

3. 調査内容 (調査票)

別紙調査票 (3ページ以降) を参照

【参考資料】「地域の高齢者生活・助け合い活動等に関する調査ご協力をお願い」

4. 調査方法

調査対象に別紙調査票を郵送等により配布し、回収する。

5. 調査期間

町会、函館市社会福祉協議会 平成27年9月24日 (木) ~ 11月23日 (月)

地域包括支援センター 平成27年9月30日 (水) ~ 11月23日 (月)

6. 回収状況

種 別	団体数 (回収数)	回収率	配布数 (回収数)	回収率
町 会	185 (121)	65.4%	1,850 (875)	47.3%
包括支援センター	6 (6)	100.0%	60 (41)	68.3%
函館市 社会福祉協議会	1 (1)	100.0%	10 (10)	100.0%
合 計	192 (128)	66.7%	1,920 (926)	48.2%

地域の高齢者生活・助け合い活動等に関する調査ご協力をお願い

(趣旨)

少子高齢化が急速に進行している函館市で、高齢者や地域住民が安心して生き生きと暮らしていける地域をつくりあげていくためには、地域住民が自ら活動し、お互いに助け合い支え合う地域づくりが求められています。

高齢者福祉については、介護保険制度の改正に伴い、地域のみんなで地域をつくっていくという「地域包括ケアシステム」をより推進していくとともに、介護予防につながる事業取組に関しては介護保険制度の中で支援することができるような仕組みとなります。

そこで、より効果的で、それぞれの地域の実情にふさわしい介護予防につながる事業や仕組みをつくりあげていくために、地域の今の姿について調査を行うことにいたしました。

ご多忙中、大変恐縮ですが、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

(調査対象)

函館市内の各町会、地域包括支援センター、函館市社会福祉協議会

(調査基準日)

平成27年9月末日現在の状況についてご回答ください。

(回答記入者)

調査票には、できるだけ役職や担当が違う複数の方から、それぞれの町会役員としての立場でのご記入をお願いします。(10名)

(回答期限)

平成27年10月15日(木)までに町会ごとに取りまとめて、同封の封筒で町会連合会様宛にご返送お願いいたします。

(回答内容の取扱い)

いただいた情報に関しては、本事業のみに使用し、無断で他に流用すること等はいたしません。また、いただいた情報により、記入いただいた方が不利益を被らないように取り扱うとともに、いただいた貴重な情報を介護予防促進のため有効に活用していきたいと考えております。

(実施者・問い合わせ先)

函館市生活支援コーディネーター 丸藤 競

電話 080-5722-4261

住所 〒040-0053 函館市末広町4番19号 函館市地域交流まちづくりセンター内

(生活支援コーディネーターとは)

高齢者や地域住民の生活支援サービスや介護予防の充実を図ることで、誰もが生き生きと暮らせるようになるためのまちづくり活動を行っています。平成27年6月1日より、函館市地域交流まちづくりセンター長の丸藤が、函館市からの委託で活動しています。

地域の高齢者生活・助け合い活動等に関する調査票（町会役員様用）

少子高齢化が急速に進行している函館市で、高齢者や地域住民が安心して生き生きと暮らし続けていける地域をつくりあげていくためには、地域住民が自ら活動し、お互いに助け合い支え合う地域づくりが求められています。

高齢者福祉については、介護保険制度の改正に伴い、地域のみんなで地域をつくっていくという「地域包括ケアシステム」をより推進していくとともに、介護予防につながる事業取組みに関しては介護保険制度の中で支援することができるような仕組みとなります。

そこで、より効果的で、それぞれの地域の実情にふさわしい介護予防につながる事業や仕組みをつくりあげていくために、地域の今の姿について調査を行うことにいたしました。

回答は、お手数ですが、町会毎にまとめて10月15日までに、函館市町会連合会様宛にご返送ください。

なお、いただいた情報に関しては本事業のみに使用し、無断で他に流用すること等はいたしません。また、いただいた情報により、記入いただいた方が不利益を被らないように取り扱うとともに、いただいた貴重な資料を有効に活用していきたいと考えております。

ご多忙の中、誠に申し訳ございませんが、ご協力よろしくお願いいたします。

函館市生活支援コーディネーター まるふじ 丸藤 きそお 競

（問合せ：080-5722-4261）

- 各項目、当てはまるものに○か◎を付けていただき、必要に応じて記入をお願いします。
- 役職や担当等が異なる複数（最大10名）の方から、それぞれの立場でご回答をお願いします。

◆ 所属 _____ 町会 _____ 役職 _____

性別 男 ・ 女 _____ 活動年数 _____ 年

年齢 10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代・80代以上

(1) 普段から町内で、高齢者や地域住民が集まって活動している団体や趣味の会のようなものはありますか？

ある ・ ない

(2) (1)で「ある」とお答えいただいた方への質問です。

① それは、どのような所で行われていますか？（複数回答可）

- a. 町会館 b. 空き店舗 c. 個人宅 d. 公共施設（施設名： _____）
- e. 福祉関係の施設（施設名： _____）
- f. その他（ _____）

- b. そういう場が欲しいという要望が出ているから。
- c. 高齢者をはじめ、町内に住んでいる方の経験やスキルを活かせるから。
- d. 閉じこもりを防ぐ効果があると思うから。
- e. 色々な人との交流ができるから。
- f. 生きがいややりがいを持つことにつながるから。
- g. 活動への参加が楽しいから。
- h. その他()

② どのような活動が「必要」ですか？（複数回答可。特に重要だと思うことには◎を）

- a. 簡単な体操など、体を動かす活動。
- b. 気楽に、おしゃべり等ができる活動。
- c. 趣味等を学んだり、発表したりする活動。
- d. みんなで、お茶を飲んだり会食をする活動。
- e. 子どもや若者など、多世代と交流できるような活動。
- f. 地域のためのボランティア活動。
- g. その他()

(6) (4) の設問で、「必要ない」とお答えいただいた方への質問です。
なぜ、「必要ない」と思いますか？（複数回答可）

- a. 参加を希望する人がいないから。
- b. 特にこれといった効果が期待できないから。
- c. 運営していくのが大変だから。
- d. その他()

(7) 普段から、町内では健康や介護予防のために気を付けていることや、活動していることはありますか？（複数回答可。特に重視している活動には◎を）

- a. 見守り活動を行っている
- b. 茶話会や会食の会を行っている。
- c. ボランティアやサークルなどの活動に協力している。
- d. 健康維持や介護予防のための講演会や健康教室などを開催している。
- e. 隣近所が自然に助け合う活動をしている。
- f. 趣味等を学んだり発表したりする活動に、町会館などを貸し出すなどしている。
- g. 世代交流できるような活動や、イベントを実施している。
- h. 特に行っていない
- i. その他()

(8) 役員の立場として、あなたの町内の高齢者に対しどのような不安がありますか？
（複数回答可。特に重要だと思うことには◎を）

- a. 高齢者数の増加
- b. 支援の担い手がない
- c. 交流の機会が減少していく
- d. どんな支援を必要としているか分からない
- e. どこにどんな人が住んでいるのかが把握できない
- f. 閉じこもりがちな高齢者が増えている
- g. その他()

- (9) あなたの町内の高齢者は、日常生活の中でどんなことに困っていると思いますか？
(複数回答可。特に重要だと思うことには◎を)
- a. 掃除や整理整頓
 - b. 洗濯
 - c. ゴミ出し
 - d. 食事の準備や後片付け
 - e. 買い物
 - f. 外出
 - g. 雪かき
 - h. 屋内での簡単な修理や修繕
 - i. 自宅での入浴
 - j. 家周りの環境整備
 - k. 事務手続き
 - l. 体力や筋力の維持
 - m. 他の人との会話や交流
 - n. 一人暮らしの方の見守りや安否確認
 - o. 特にない
 - p. その他 ()

- (10) 「支える側」として、困っている高齢者の支援やボランティア活動へ参加してみたいと考えている方は、地域の中にどれくらいいると思いますか？
- a. たくさんいる
 - b. あまりいない
 - c. ほとんどいない
 - d. 人数は少ないけど、熱心な人はいる
 - e. 分からない
 - f. いない

- (11) それらの方は、どのような支援活動なら参加可能だと思いますか？
(複数回答可。特に重要だと思うことには◎を)

- a. 掃除や整理整頓
- b. 洗濯
- c. ゴミ出し
- d. 食事の準備や後片付け
- e. 配食
- f. 雪かき
- g. 買い物や宅配便受け取りの代行
- h. 送迎や付き添いなどの外出支援
- i. 話し相手
- j. ご近所の見守りや安否確認
- k. 高齢者が気軽に交流できる通いの場などの運営
- l. 茶話会や会食の会等の実施
- m. 屋内の簡単な修理や修繕
- n. 事務手続きの支援
- o. 家の周りの環境整備支援
- p. 趣味活動の支援
- q. 代筆や代読
- r. 特にない
- s. その他 ()

- (12) 今、あなたの町内で行われている高齢者に生き生きと暮らしていただくための活動は、100点満点で何点だと思いますか？

_____点

- (13) それでは、100点満点にするためには、何が必要だと思いますか？

ご協力、ありがとうございました。

◇ アンケート記載者の概要

◆ 所属

・ 町会（121）

入舟、船見町第一、第二船見、天神、弁天、大町、青柳、住吉、宝来、豊川、大手、栄、大森、千歳、新川、大縄、松川、北浜、港、港町北部、追分、大川、道営大川団地自治会、田家、白鳥、八幡、宮前、堀川、高盛、宇賀浦、日乃出、日乃出改良団地自治会、的場、金堀町はなます、金堀広野、函館少年刑務所宿舎、時任、杉並、本町梁川、五稜郭、柳町、松陰、人見、人見南、乃木、柏木、川原、深堀、東深堀、駒場自治、駒場団地、湯川町一丁目、湯川町二丁目、湯川三丁目、湯川温泉、戸倉ヶ丘、香雪団地自治会、高丘、見晴、花園、日吉ヶ丘、日吉はるか台自治会、日吉東部、日吉、日吉町北栄会、日吉北団地会、日吉四丁目、日吉自由ヶ丘自治会、上湯川、上湯川団地、西旭岡、西旭岡道営自治会、亀尾、蛾眉野、高根西部、空港団地、志海苔、三協、新湊、古川、豊原、石崎、石川、桔梗、亀田本町第四、亀田本町第五、亀田港東富岡、富岡一丁目、美原グリーン、中道一丁目、本通、南本通、本通中央、中道第二、神山、陣川あさひ、陣川みどり、ひばりが丘、山の手、山の手二丁目中央、東山ニュー東山、東山見晴台団地、小安、瀬田来、泊町、館町、原木二見、尻岸内、女那川、日ノ浜、椴法華、新浜町二、尾札部、大船、磯谷、ききょうの里自治会、雇用促進自治会

・ 地域包括支援センター（6）

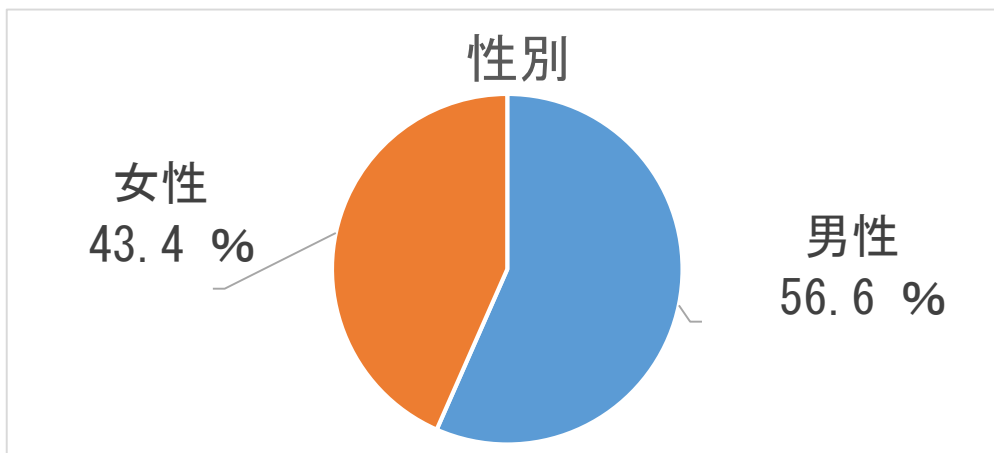
こん、厚生院、よろこび、あさひ、西堀、社協

・ 函館市社会福祉協議会（1）

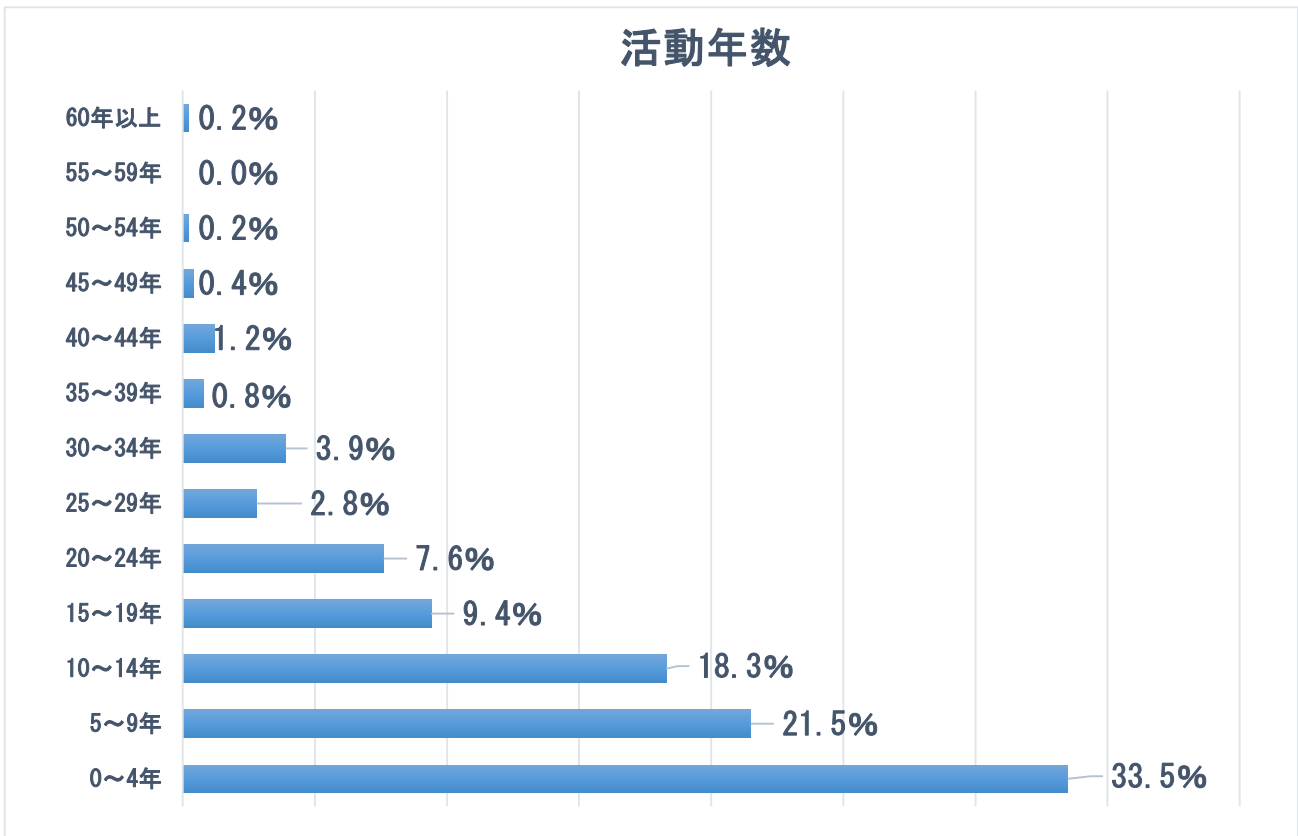
◆ 役職、

多岐にわたるため、詳細省略。

◆ 性別

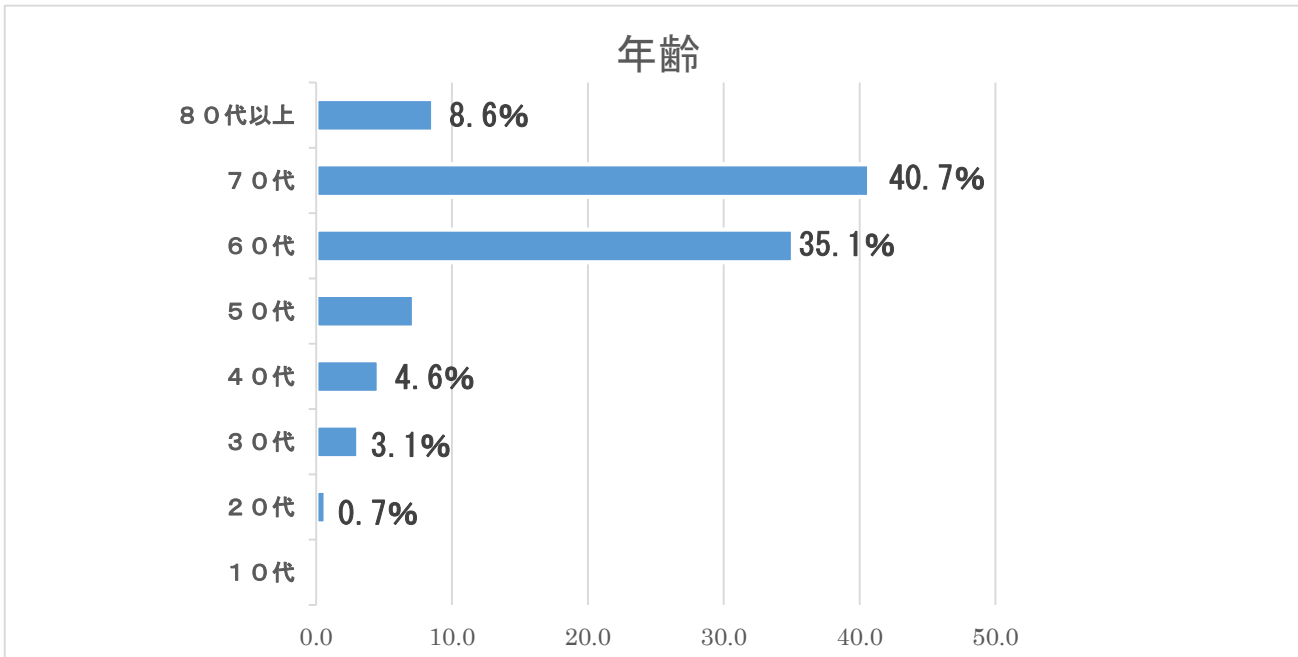


◆ 活動年数



※ 現在の役職に就いてからの年数と、活動当所からの年数を記載したものが混載されている。

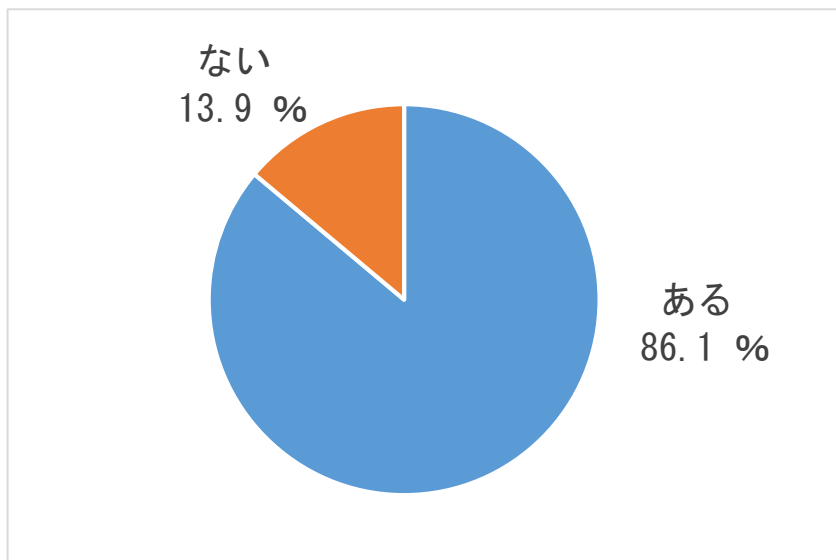
◆ 年齢



※ 20代の大半は、包括支援センター職員。

◆ 設問（１）

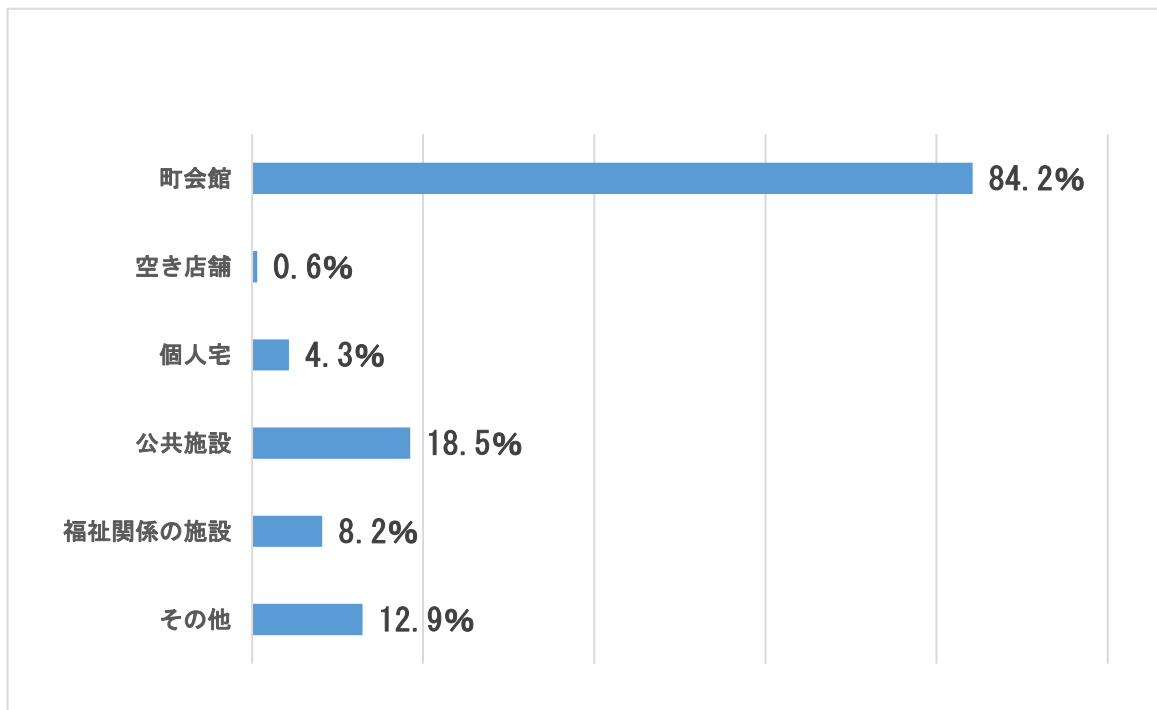
普段から町内で、高齢者や地域住民が集まって活動している団体や趣味の会のようなものはありますか？



◆ 設問（２）

（１）で「ある」とお答えいただいた方への質問です。

① それは、どのような所で行われていますか？（複数回答可）



○ 主な自由記載内容（複数回答含む）

・ 公共施設

サン・リフレ、パークゴルフ場、市民会館、団地集会所、宮前児童館、公園、小学校グラウンド、ポリテクセンター、函館フットボールパーク、亀田福祉センター、漁村センター、百寿会館、旧公会堂、芸術ホールリハーサル室、プール、生涯学習センター、コミュニティーセンター、亀田青少年会館、公民館、保健センター、青年センター、あいよる21、教育大学、老人福祉センター、まちづくりセンター、保健センター、弁天館、臥牛館、学校の体育館 等

・ 福祉関係の施設

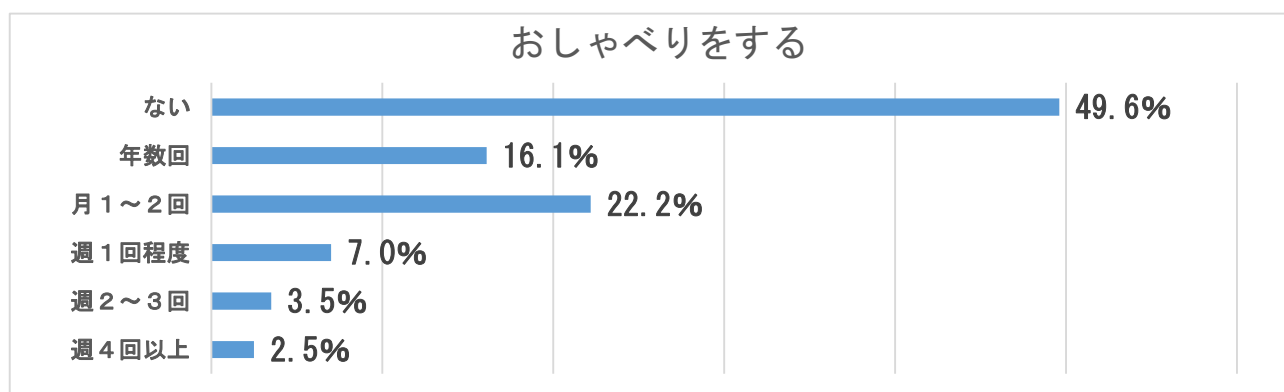
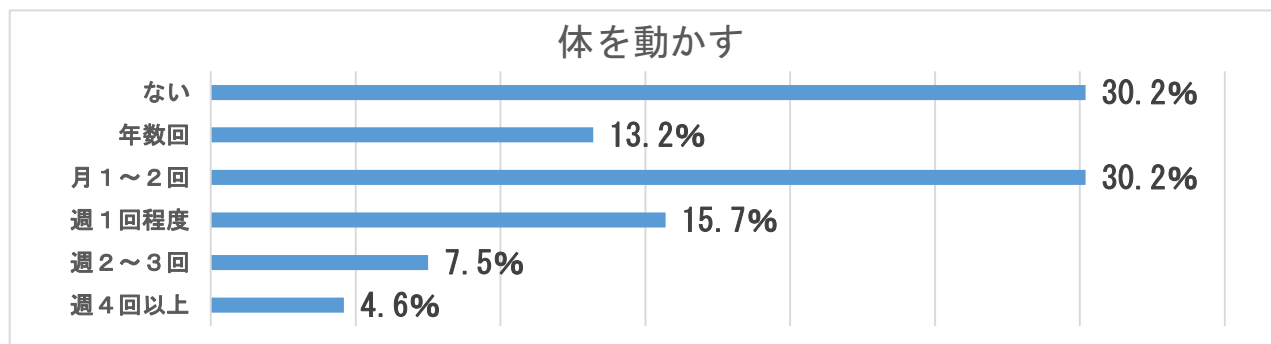
コミュニティ松川、ケアプランくりの木、ふれあい、こうじゅ3号館、百楽園、昭里、視力障害センター、在宅福祉委員会、地域包括支援センター西堀、亀田北病院さくら館・幸成園、ききょう わとな、明和園、中島ふれあいセンター、絆21、特別養護老人ホーム松寿、白ゆり美原 等

・ その他

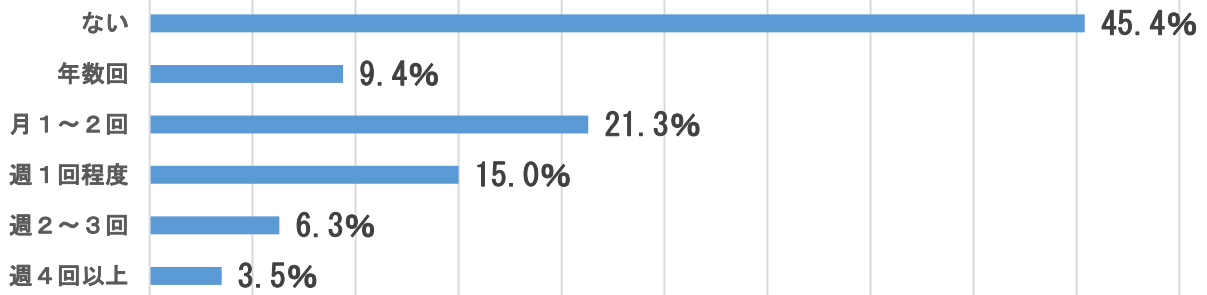
温泉、旅館、スナック、ホテル、健康講座、温泉、カラオケ店、集会所、グラウンド、公園、喫茶店 等

② そこでは、どのような活動が行われていますか？（複数回答可）

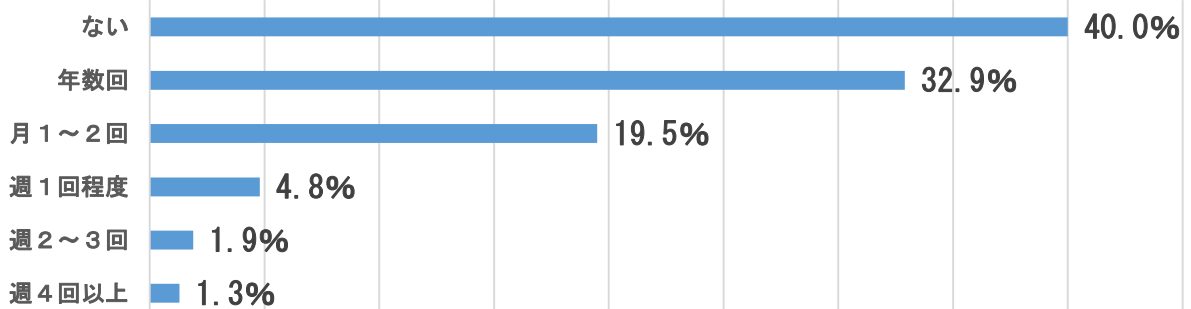
また、どれくらいの回数、行われていますか？



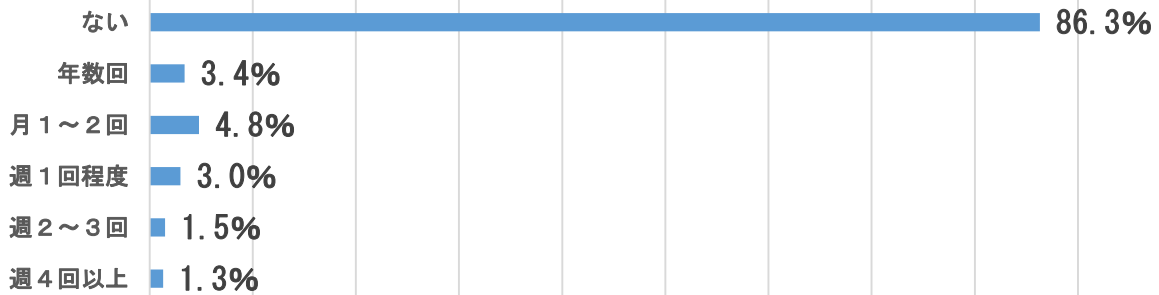
趣味の活動



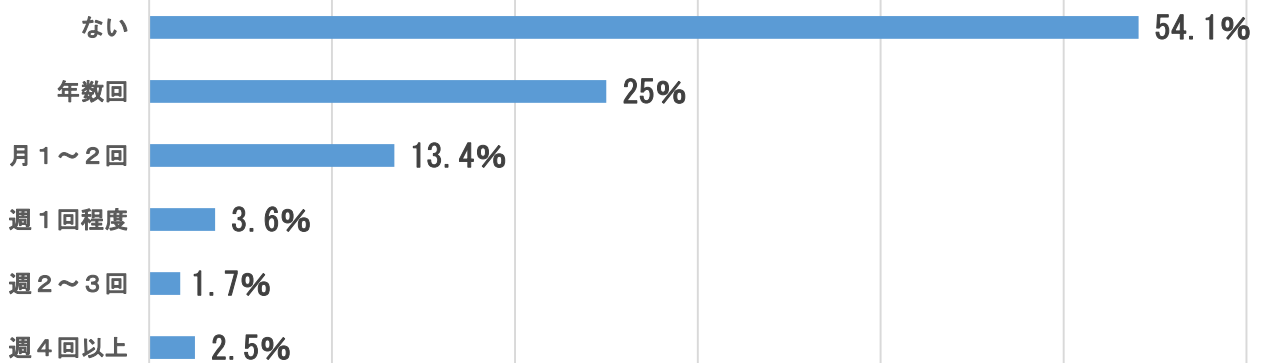
お茶を飲んだり、食事をする



好きな時に来て、自由に過ごす



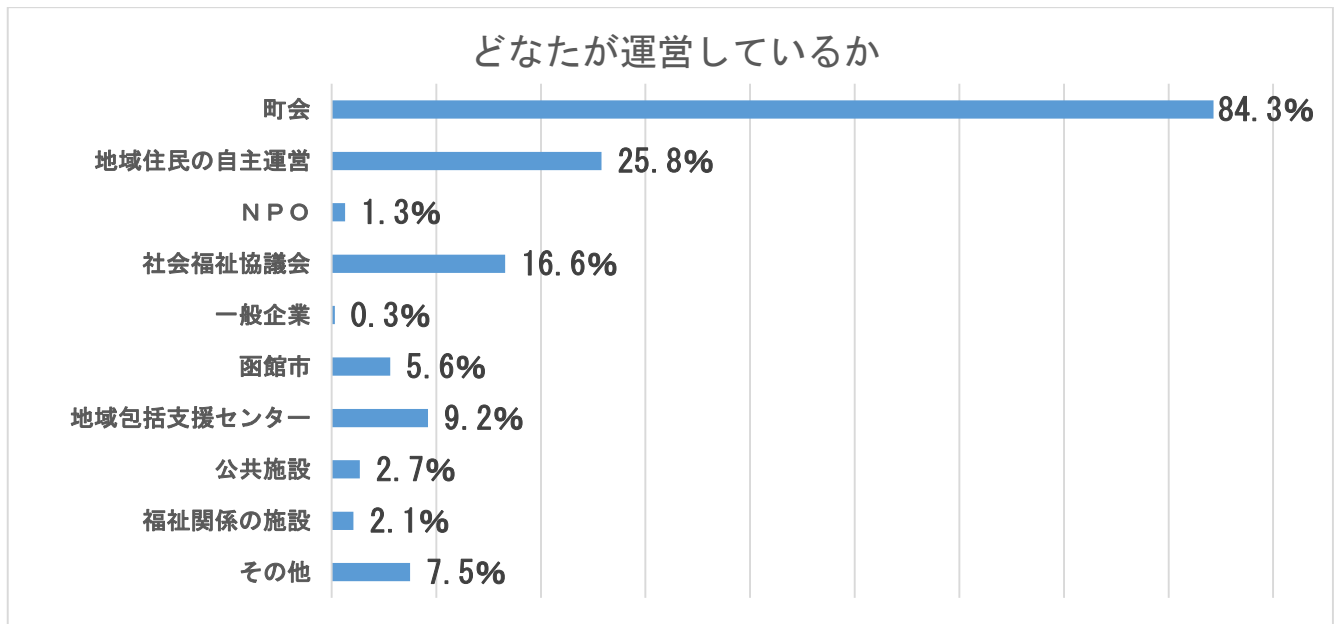
ボランティア活動



○ 「その他」に記載された活動内容（主なもの）

- ・ 民生委員、在宅福祉活動 週1回程度。
- ・ 三世代交流年数回。町会まつり年1回、定例会議月1回。
- ・ ふまねっと運動を月2回。健康体操などを月2回。
- ・ カラオケの会 月2回。
- ・ 本の読み聞かせ 月1～2回。
- ・ 春、秋のクリーン作戦参加。
- ・ 夏祭り年1回。
- ・ パークゴルフ 5月～10月の各3回（計18回）。ウォーキング週1回。
- ・ 地域公園のゴミ拾い 月1回。
- ・ 健康教室 月3回程度。
- ・ ハーフマラソン給水係。
- ・ 75歳以上の独居の方のふれあいの会 年10回。月2回バスツアー市内。
- ・ グランドゴルフ年4回。茶話会年6回。運動会年1回。
- ・ バス停の花の手入れ週1回。バス停の掃除週3回。草刈り年5回。
- ・ 春と秋の楽しみ会
- ・ 敬老会年1回。餅つき大会年1回。子ども会会合年5回、夏祭り年1回。神社関係年数回。
- ・ 児童遊園地で雨の日以外毎日ラジオ体操、いきいき体操実施。参加者30名ほど。6年目。
- ・ 自治会では13のサークルがあります。
- ・ 在宅福祉食事会 年3～4回。
- ・ 演芸会、敬老会 年1回。
- ・ 地域の見守り 週1（4～11月）。
- ・ 健康麻雀週1回程度
- ・ 電話面談相談週2～3回。傾聴ボランティア。
- ・ 社会福祉協議会による、いきいきサロン。
- ・ 町内の高齢者が自らグループをつくり、カラオケ・おしゃべりを週定期的に行っている。在宅福祉委員会は、計画的に（年6回）食事会、茶話会を行っている。
- ・ 年5回、高齢者で単身又は80歳くらいで夫婦でいる方を対象に、在宅福祉委員による手作りの食事会等が行われている。
- ・ 町会ですから、ほとんど毎日活動。
- ・ 年2回サロン、茶話会。
- ・ 街きれ運動、花いっぱい運動、健康体操、ペタンク。
- ・ 町会で食事会。温泉入浴食事会。年2回サロン茶話会。折り紙。配食（自宅へ）年1回。
- ・ 断酒会。お互いの体験談等月1回。
- ・ 声かけ運動。

③ その活動は、どなたが運営（主催）していますか？（複数回答可）



○ どなたが運営しているか 自由記載内容（主なもの）

・ 公共施設

女性センター、老人福祉センター、学校、在宅福祉委員会、等

・ 福祉関係の施設

あいよる21、こうじゅ3号館、わとな、函館渡辺病院、幸成園さくら館、白ゆり美原、高齢協茜、百楽園 等

・ その他

老人大学のクラブ活動、個人、自治会有志、教育大生のボランティア、自宅開放、町内のサークル、同好会、趣味の会、地域の在宅福祉委員会、女性部、協会病院、老人クラブ、SPORTS 北海道 等

※ 同一の町会内であっても、役員によって、活動内容や回数に対して認識の差が大きいところが多かった。

※ 町会の役員間で、情報共有・認識の共有がなされていないように考えられる。

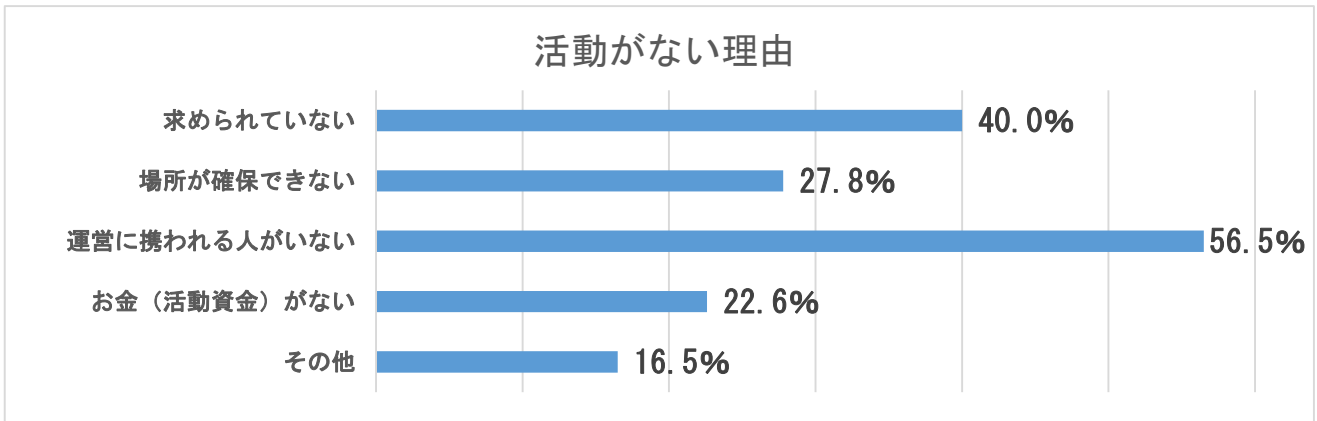
※ 「居場所」が極端に少ないのが今後の課題。

※ 活動が行われているものであっても、介護予防の効果が出てくると言われている、週1回以上開かれているものが少ない。

※ 多くが、年数回の活動にとどまっている。

◆ 設問 (3)

(1) の設問で「ない」とお答えいただいた方への質問です。
なぜ、「ない」のだと思いますか？（複数回答可）

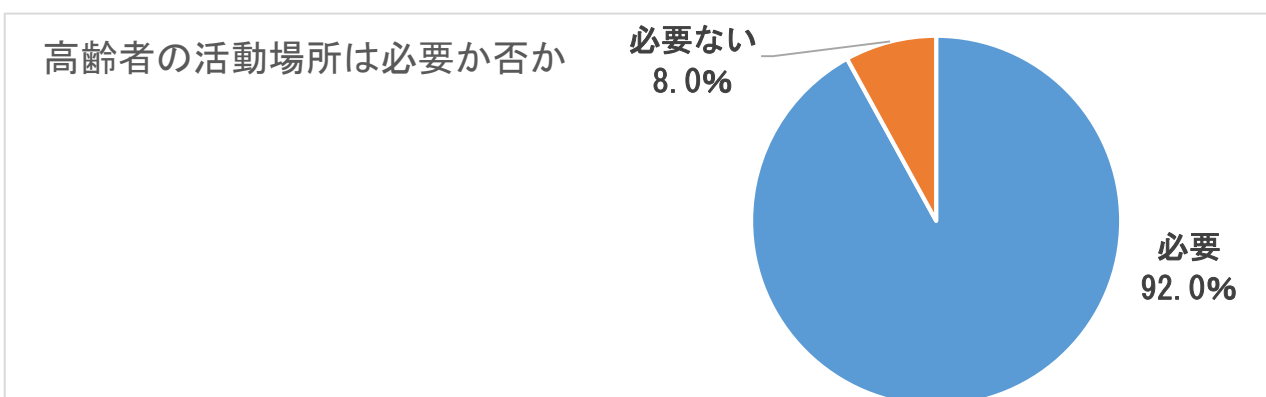


○ その他に記載された内容（主なもの）

- ・ 高齢者過ぎて会合を持ってない。
- ・ 対象者が高齢化しているため誘うにも誘いづらい。運営する役員がそもそもいない。
- ・ 町会館がない。
- ・ 自身が、体力的に参加できない。
- ・ 参加する人が少なすぎる。
- ・ 以前は敬老会等行われていたが、人の減少により、集まる機会が少なくなったと思われます。
- ・ 世帯数が少ない割に高齢者が多く、敬老会などどんどん縮小せざるを得ない状態ですから、活動できず、弁当だけで済ませている状態。
- ・ 企画したとしても参加する人が少ない。参加者が固定されている。
- ・ 集まる交通手段がない。

◆ 設問 4

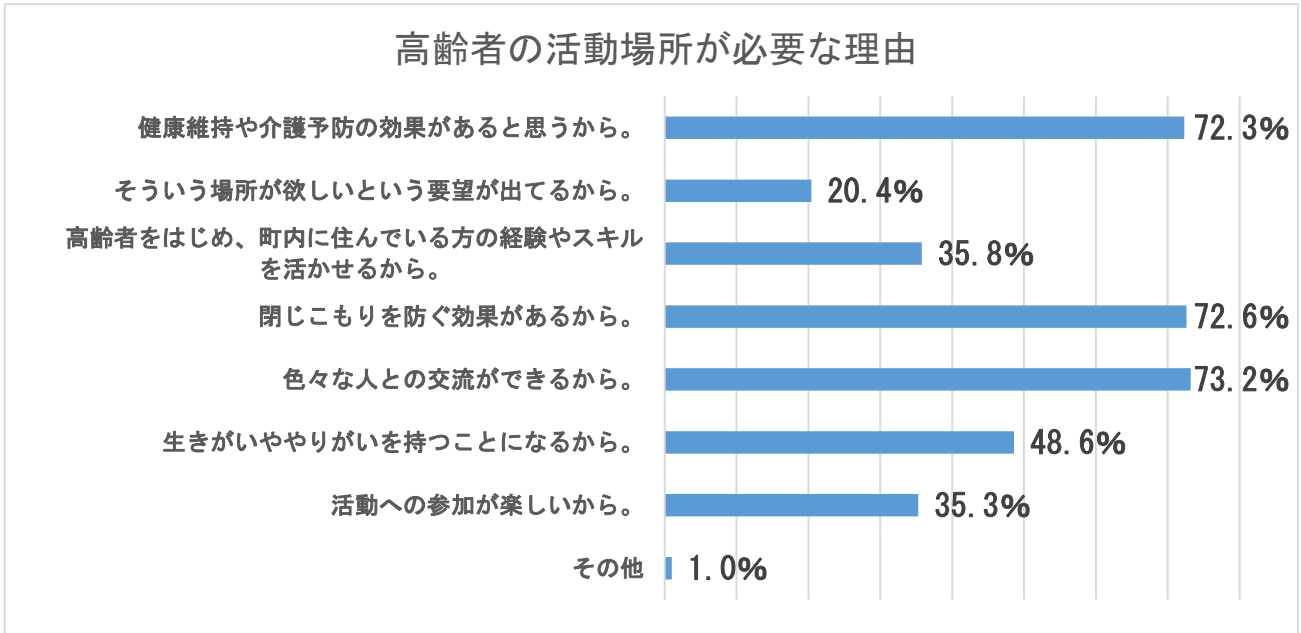
(1) の設問で、「ある」と答えた方にも「ない」と答えた方にもお聞きします。町内に、高齢者や町内の住民が集まり活動できる場所は必要だと思いますか？



◆ 設問 (5)

(4) の設問で、「必要」とお答えいただいた方への質問です。

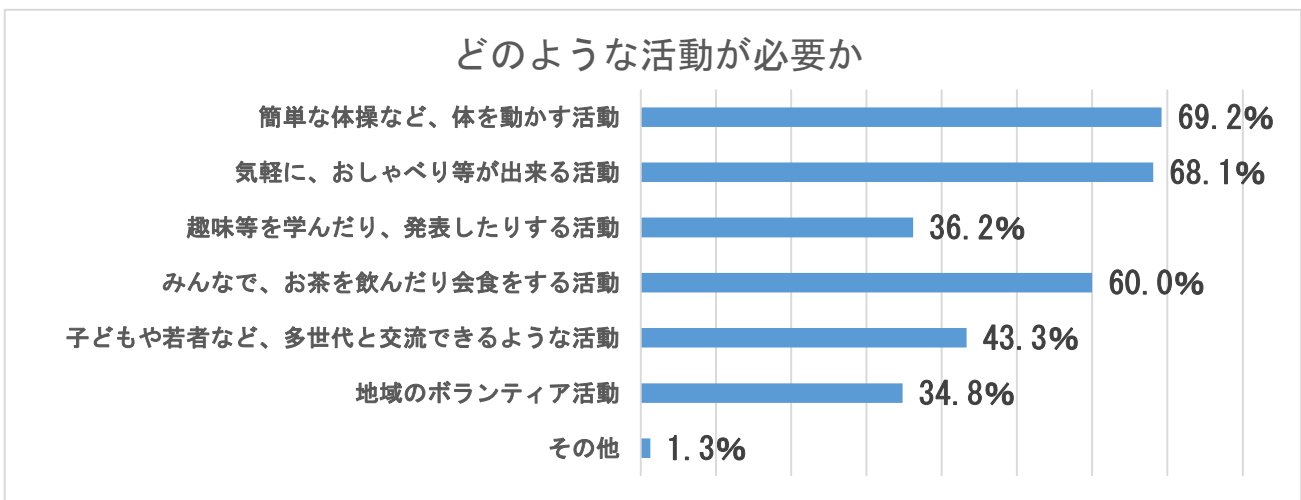
① なぜ、「必要」だと思いますか？（複数回答可）



○ その他に記載された内容（主なもの）

- ・ 近隣町会との交流と理解を深めることにつながる。
- ・ 町会役員会議、総会、新年会、老人クラブ役員会、老人クラブお食事会、お誕生会などのため。
- ・ 能力を持った方が、たくさんうもれているから。
- ・ お互いの見守り。
- ・ 社会的孤立の早期解決ができる。

② どのような活動が「必要」ですか？（複数回答可）

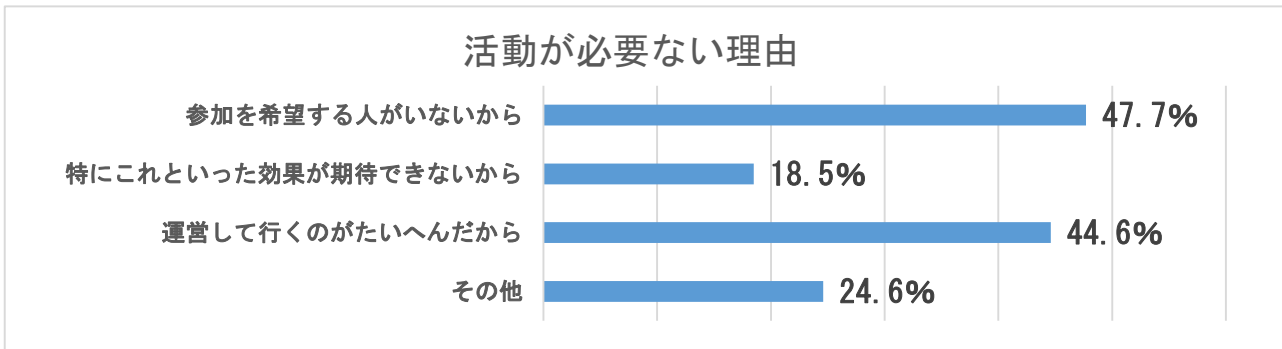


○ その他に記載された内容（主なもの）

- ・ 近所との協力関係の体制づくり。普段からのコミュニケーション。
- ・ 一人住まいの安否確認。
- ・ 町内対抗ソフトボール大会（子ども中心）など、スポーツを取り入れた交流。ゲートボール大会（大人・子供OK）。
- ・ まず、簡単なことから始めたらいいと思う。
- ・ 現代人は病気を持っている人が多い。特に高齢者はリスクが高い。未病のうちに、健康づくり又は相談するところがあればいいと思う。
- ・ 旅行サークル、映画サークルなど。

◆ 設問 （6）

（4）の設問で、「必要ない」とお答えいただいた方への質問です。なぜ、「必要ない」と思いますか？（複数回答可）

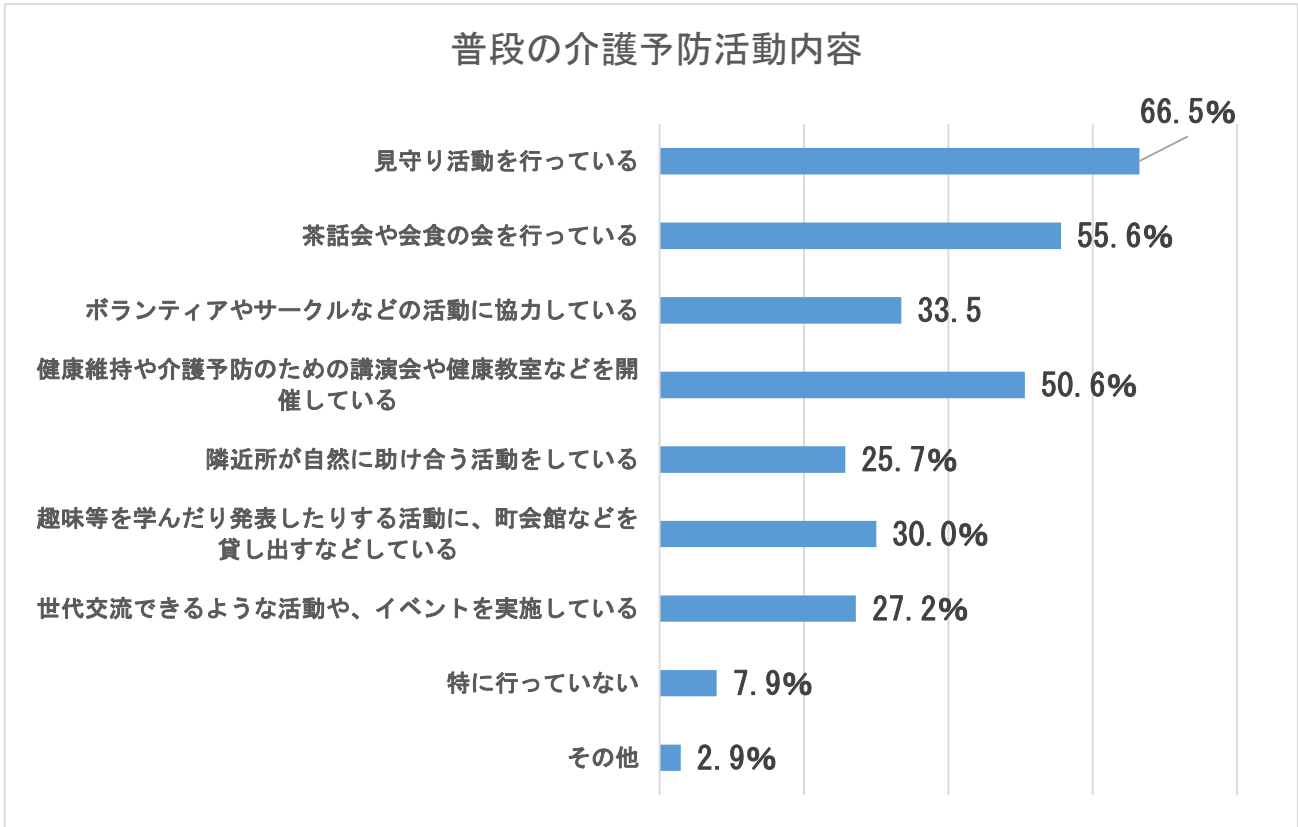


○ その他に記載された内容（主なもの）

- ・ 町会があるので間に合っている。
- ・ 高齢者がいない。時間がない。
- ・ 現行で充分と考える。
- ・ 高齢者が多く、支援の担い手が少ない。
- ・ ごく小さな自治会なので、場所の確保、資金的な面、さらに人材確保等で困難だと思われる。
- ・ デイサービスの利用が多いから。
- ・ まず人がいません。
- ・ 老人団体は必要なし。若いものに座を空けよう。
- ・ 箱物を作って解決できる問題ではないと思う。作ったあとの維持管理はどうする。町会館の老朽化にさえ対応できない現状がある。

◆ 設問 (7)

普段から、町内では健康や介護予防のために気を付けていることや、活動していることはありますか？（複数回答可）

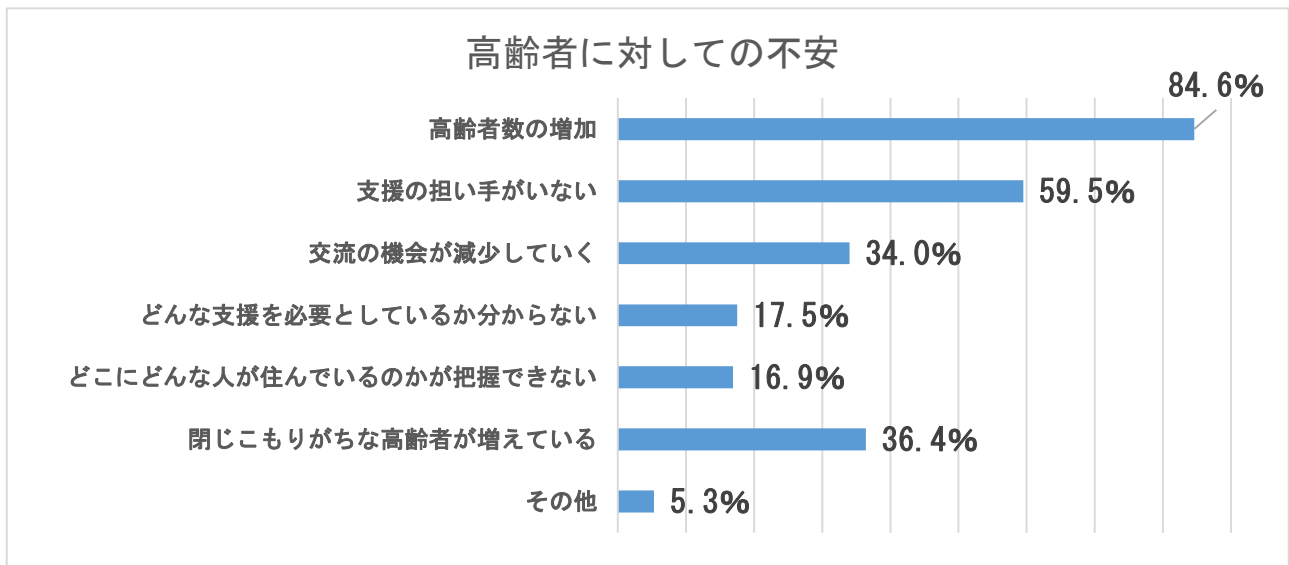


○ その他に記載された内容（主なもの）

- ・ 健康体操。年1回1時間半くらい。これでは足りない。
- ・ 声かけ。町民に集いを年1回。軽体操とカラオケ、ランチ、ふれあいの集い年1回等。
- ・ ラジオ体操、クリスマス会、夏まつり、リンゴ狩りなど。
- ・ 在宅福祉委員が行っているとのこと。
- ・ 町会でというより、在宅福祉で行っている。
- ・ ラジオ体操6年間児童公園30名参加、毎日素振り50回以上。
- ・ 集まる場所があれば、見守り活動ももっと楽になるのでは。
- ・ 町会長が、積極的に介護予防のための情報を自治会会報閲覧で提供している。
- ・ 地域で力を発揮したいと考えている人材への支援・実態把握、地域住民のニーズ把握。
- ・ 朝のラジオ体操。
- ・ 高齢者の集う場所、立ち上げ支援と活動支援。
- ・ 社会福祉会で活動している。

◆ 設問 (8)

役員の立場として、あなたの町内の高齢者に対しどのような不安がありますか？



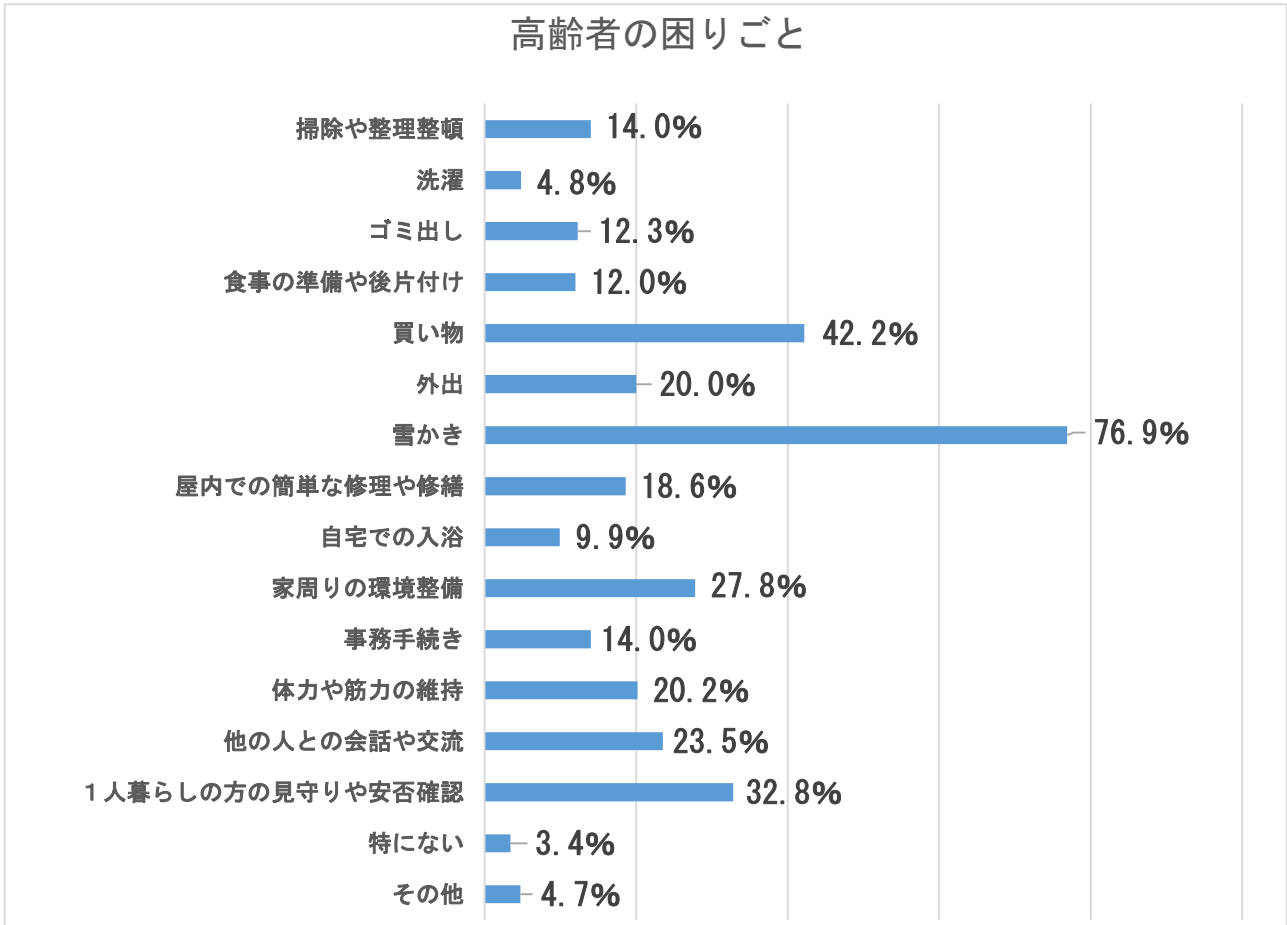
○ その他に記載された内容（主なもの）

- ・ 役員の高齢化と、なり手不足。
- ・ 全く不安はない。
- ・ 役員が高齢化であるので、町内活動が減少していく。
- ・ 問題はあるが不安はない。問題をどう解決するかをしっかりと検討し、実行してゆくことだと考えている。
- ・ 老老介護拡大。
- ・ 老夫婦や一人暮らし老人が多いのが不安。自分自身のことだ。
- ・ 空家空地が多くなり町内は人口が減少しています。西部地区として高齢者や空き地が増加していることが大きな課題とっていますが、函館駅前周辺の活性化のためにも、市営住宅等の建設を希望しています。
- ・ 介護家族の支援方法。
- ・ 災害時の介護が心配です。
- ・ デイサービスを利用している方が増えている。
- ・ 町会へ参加できない不自由な体の人にとっては、支援が少ないと思っているのではないかと。
- ・ 支援の担い手が少ない。見守り活動を行って、これを拒む高齢者がいる。
- ・ 支援するにも私自身が高齢者である。気持ちはあるが、できない。
- ・ 交流を持たない人もいる。
- ・ 家族構成が把握できない。
- ・ 特に男性は協調性がなく、自分の殻に閉じこもって社交性も視野も狭く積極的に入ってこないのが悩みです。一部ですが。

- ・ 65～69歳490人、70～79歳283人、80～84歳194人、85～89歳110人と、毎年老年人数が増加していく。若者の減少。(平成27.6現在人口)
- ・ 孤独死が多い、近所同士の交流がない。
- ・ 持ち回りの班長(回覧板の起点と町会費の集金)が出来なくなっている世帯が出ている。
- ・ 災害時の避難の方法
- ・ 近所づきあいをしなくなっている。
- ・ 若者の町会活動参加が少ない。
- ・ 支援の役員も高齢になり、役員のなり手が困難な状態です。
- ・ 移動手段がない(公共交通がない)
- ・ 干渉されたくない人もいる
- ・ 独居老人の安否等については、町ぐるみの対応が必要。例えば、郵便配達一隣近所付き合い等を通して
- ・ 今の福祉委員の次世代を担う人が足りないので、自分がサービスを受ける側になったときに在宅の食事会等が継続できるか心配。
- ・ 活動場所を設けても、集まる人が決まってしまう。
- ・ 支援する方も高齢化してきている。
- ・ 個人情報関係で、なかなか思うように行かない場合がある。
- ・ 高齢者は若者に全て任せてはどうか。
- ・ 認知症の増加、独居老人の増加。薬の重複など、管理ができていない。そんなサービスがあるか知らずに自分たちで抱え込む。
- ・ 独居高齢者夫婦世帯の認知症の方の増加。家族が遠方、もしくは希薄化ケースの増加。
- ・ 他者との交流を求めない方々が多くいる。
- ・ 身寄りがない(いるが関係希薄)高齢者が増えている。
- ・ 家族の問題。
- ・ 認知症や精神疾患があり、支援に結び付いていない方がいる。自分自身の問題に気付いていない。自分自身の問題を自分で解決する意欲に乏しい方が多い。
- ・ 独居、高齢者夫婦世帯が増えている。
- ・ 閉じこもらなくても地域から孤立している。
- ・ 町会の性質上、高齢者はいないので考えることがない。ただ、若い世代の積極的参加がなくなってきている。

◆ 設問 (9)

あなたの町内の高齢者は、日常生活の中でどんなことに困っていると思いますか？
(複数回答可)



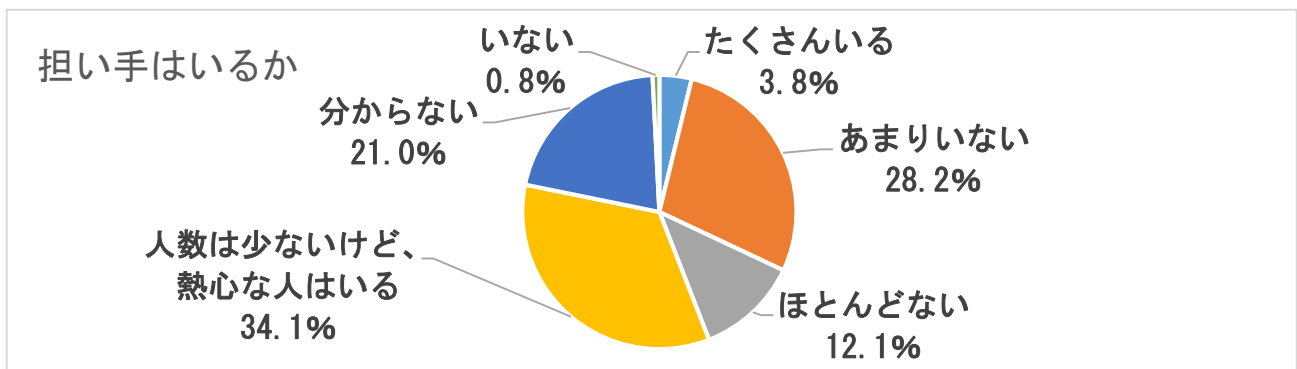
○ その他に記載された内容 (主なもの)

- ・ 日常生活の中では、全て思いあたると思う。一人暮らし。
- ・ まわりの高齢者は、この質問には介護保険で何とかしていると思います。
- ・ 自宅にお風呂がない方の入浴。
- ・ 仲良くして欲しいが、好き嫌いがあって難しい。
- ・ 入浴難民 → 自宅に風呂のない古い家が多い。
- ・ 安否確認をしております。
- ・ 近くに銭湯がない。
- ・ 生活の全てに助けが必要。人間不信の人がいる。
- ・ 高齢の方、60歳以上がいないので答えられない。が、雪かきは、世代関係なく大変であるが、若手が消極的。
- ・ 何を求められるかがわからない。

- ・ あまり耳に入っていない。
- ・ 草取り。
- ・ 見回り隊をつくり発展しないよう。
- ・ 在宅では、声かけをしています。
- ・ 近くに雪の捨て場がないので困っています。
- ・ 調査したことがないので、わからない。
- ・ 高齢者も千差万別で、干渉・詮索されるのを嫌がる人も。面倒です。
- ・ 車を運転したくても、足がない。
- ・ 子どもと同居しているため何とかなっている人が多い
- ・ 助け合い、共同の精神がない。
- ・ 高齢者一人、二人暮らしが多くなり、できるだけ声かけしようと話し合ってます。
- ・ 実態を把握していないので不明。
- ・ 移動手段。
- ・ 当町会の地域特性として交通の便が悪い。
- ・ 安否確認はできるが人手が足りない。若者や体力のあるボランティアがいない。
- ・ そのようなことを話す機会がないので、よく分からない。
- ・ 何もすることがない。
- ・ 隣、近所の方々との交流。
- ・ 病院や温泉への送迎、郵便物の整理。
- ・ ヘルパーでは提供不可能なサービス内容。
- ・ 子ども、夫のこと。
- ・ 高齢者といっても、色々な人がいるので。
- ・ 困っていることは様々だと思う。何に困っているのかを聞くことができる、話せる場所や人が身近にいないことに困っている。
- ・ 自分自身が困っていることに気づかないこと。

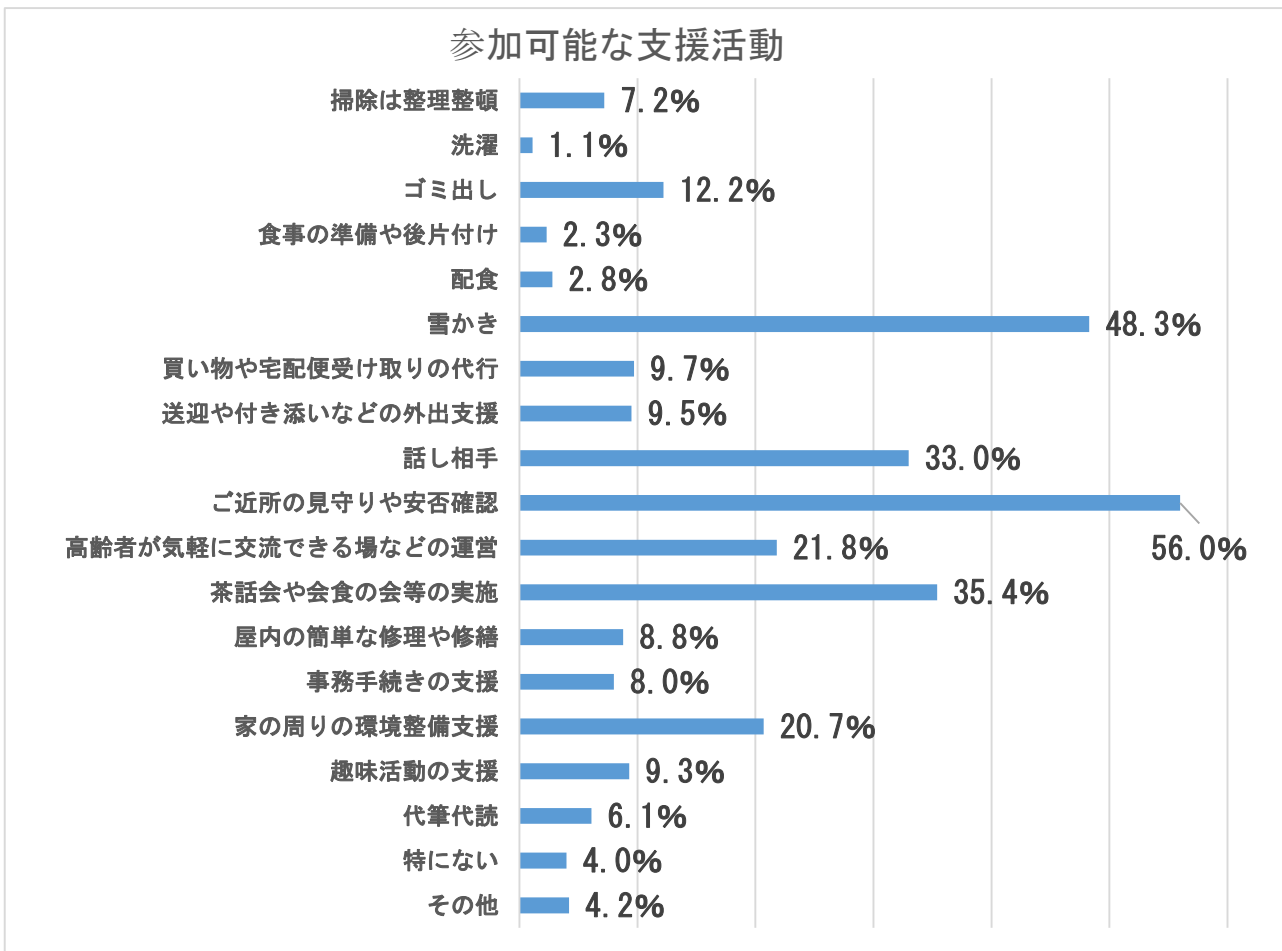
◆ 設問 (10)

「支える側」として、困っている高齢者の支援やボランティア活動へ参加してみたいと考えている方は、地域の中にどれくらいいると思いますか？



◆ 設問（11）

それらの方は、どのような支援活動なら参加可能だと思いますか？（複数回答可）



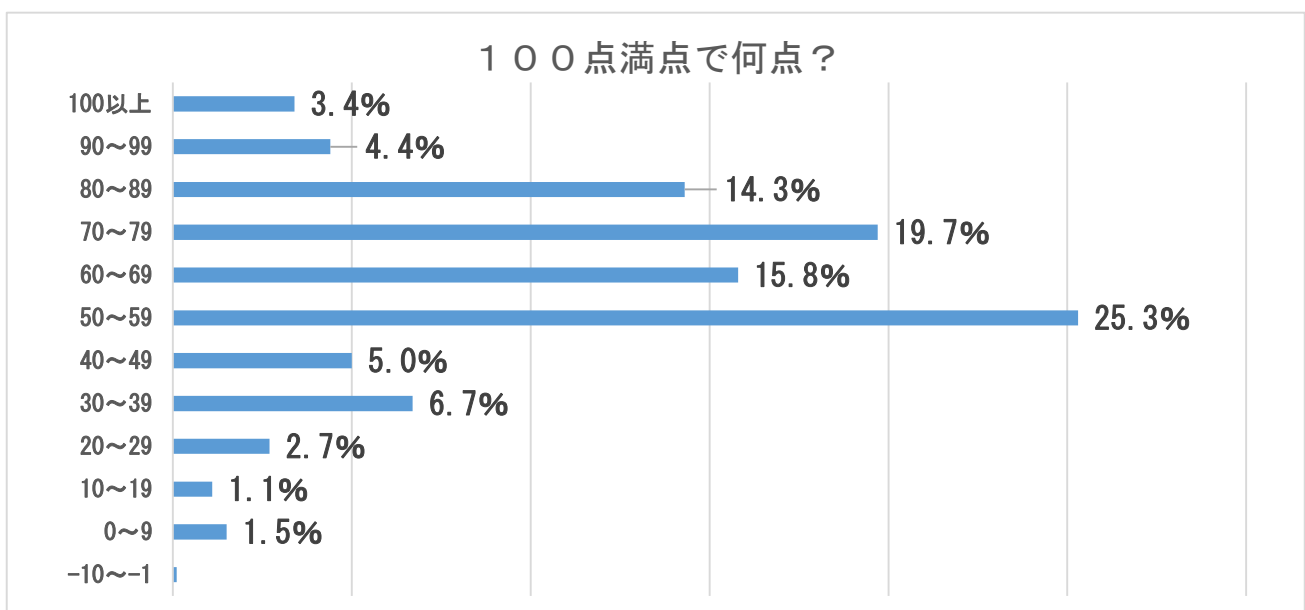
○ その他に記載された内容（主なもの）

- ・ 支援活動について具体的意思確認をしていないため、断定できず。
- ・ わからない。
- ・ この人はこんな支援に参加可能か本人に聞かないと不明。
- ・ 現役時代の人、学生さん達に求めることに限界あり。見守る人、見守られる人、高齢者という事情は減少しない。
- ・ 安否確認。
- ・ 訪問介護を利用して掃除や整理をしてもらい、又、週2回くらい地域包括支援センターに来ている人が多い。
- ・ 自分も含めて楽しく交流をはかりたい
- ・ 人それぞれだとは思いますが、支援される側の人あまり人と接触をしたくないように見える。
- ・ 気軽に話合いのできる場を望んでいる方が多い。
- ・ 皆、自分の生活でなかなか他の家の事までできない。ボランティアには限界がある。

- ・ あくまでも被支援者の了解のもとで。
- ・ 家の中での支援には、予想される課題の整理が必要と思われます。
- ・ それらの方と直接具体的に話をしていないので、わからない。
- ・ 高齢者は他人を家に入れたがらない。
- ・ 一対一での活動は難しい。一か所に集まってもらい複数での活動。
- ・ 日常、一人暮らしの高齢者でも家族が家に居るので、頼まれたことならできる範囲で協力したい。
- ・ 必要なことが分かれば、それに応じた人材募集ができるのでは・・・市との協調の必要あり。
- ・ 普段の支援活動は参加しないが、地域で何事かあった場合は率先して全ての支援活動に参加が出来る地域住民である。
- ・ 若い方はほとんどが共働きで、どうしても老々でやるしかないのが現状です。買い物、雪かき等はほとんど隣近所で助け合い。
- ・ 役員の高齢化で、できない方が多い。
- ・ 今は、頼む高齢者もあまりいないので、踏み込んでいくわけにもいかず、難しいです。
- ・ 支える側も高齢化しているため、意欲があっても実現できない。
- ・ 支えるほうは町会の役員の参加が可能と思われるが、日々、活動されているため新たな活動は困難と思える。
- ・ 各人が活動につかえる時間や取り組みやすさによると思います。

◆設問（12）

今、あなたの町内で行われている高齢者に生き生きと暮らしていただくための活動は、100点満点で何点だと思いますか？



◆ 設問（13）

それでは、100点満点にするためには、何が必要だと思いますか？

<西部>

（70点）

・ ご近所との交流、町会イベントを増やす、町会活動への参加を促す、町会加入世帯を増やす。

（50点）

・ 若い人の活動が見られないので残念に思う。

（60点）

・ 高齢者ができるだけ多く参加してもらえるイベントが必要。
・ 市からの助成があればいいと思う。

（60点）

・ 組織の確立と活動するにあたっての予備知識の取得。
・ 上記に関する専門職の指導。

（90点）

・ 隣人の会話と閉じこもりをなくする。雪かきの手助けや近所の見守り。

（70点）

・ 高齢者が気軽に参加できる行事や見守りを強化して、役員同士が意思疎通をし、常に連絡体制に努める。町会的には財源が決まっており、その為には市からの助成を多く望みたいと思います。

（70点）

・ 個々人の悩み事相談等を重点に、趣味の教室等も行って、孤立しないことを考えることが大切だと思います。

（70点）

・ 町会としては高齢者対象の行事を実施したい。又、しているが年々身体的問題（腰、ひざ、歩行困難等）により、参加者が少なくなってきている。そのため家から出られない方達への見守りを重視していきたい。介護認定者はヘルパーサービスを受けているので心配ないと感じている。

（90点）

・ 高齢者が増加。当町会でも会長はじめ役員が苦勞しているようです。町民の若い人（数が少ない）の参加が必要と思う。

（70点）

・ お年寄りの方にも町会に足を運んで若い方と一緒にお茶しながらおしゃべりができたら笑顔になれると思う。大変なことだと思いますけど。

（80点）

・ 若い人達のボランティア精神。

(60点)

- ・ 何をやっても無理だと思います。

(50点)

- ・ 高齢者への声掛け。趣味の活動への働きかけ。今以上に増やしていくことが必要。

(95点)

- ・ 全生体の高齢者に声をかけ、町会の全ての催しに参加してもらおう。健康な中高齢者が「手・足」になり助け合う。

(80点)

- ・ 若手をもっと町会などに協力してくれることを願っています。

(75点)

- ・ 市における財政支援

(一点)

- ・ 気軽に普段からの挨拶の声掛けを起点にコミュニケーションがとれるような体制づくりが大切であると思う。

(30点)

- ・ 高齢者が自分自身でサークルでも部活でも立ち上げ、運営して行くのをサポートする形だと、老人も動くしサポートする方も少なくすむ。今の老人は人に何かしてもらっている人が多い。積極性がない。お金がかかりすぎる。

(30点)

- ・ 集合場所や人材の確保。アンケート調査。

(30点)

- ・ 町会そのものが崩壊の危機にある。町会という名を維持するがためだけの町会となっているのが現実。町民が高齢化の一方で、若い人は増えず、町自体がどんどん疲弊している。町会活動に何が必要かを論じる現状になくなりつつある。

(40点)

- ・ 町会の運営のあり方を見直す(一部の古参メンバーだけの寄り合い的な体制をやめる)

(一点)

- ・ 満点にすることもないのでは？

(75点)

- ・ 若い人たちへの引継ぎ。世代交代が必要。

(20点)

- ・ 近所の人達に声かけ運動。話し合いの場をもうける。何か具体的なことは分かりませんが、生きがいのあることを進めて行ってほしい。孤独、孤立にはなってほしくない。

(10点)

- ・ 若い人に余裕の時間や収入があって、結婚生活を行える環境が必要です。
- ・ ボランティアは、よほどの余裕がないとできません。

(70点)

- ・ 町会館で開催する行事に来る人がきまって、新しい人が参加していない。

(80点)

- ・ 中年、若い人がどんどんお手伝いしてもらえるように。

(70点)

- ・ 支援やボランティア活動する人も高齢者であり、今後、支援活動する若い人が（後継者）少なく無関心である。これらが整えられると100点になる。

(70点)

- ・ 高齢者の皆さんが町会の行事、会食会、茶話会等にもっと沢山の皆さんが参加していただき、楽しく交流の場を持っていただけましたら、と常々思っています。

(60点)

- ・ 茶話会、会食会を開いても、来る方は決まっていなかなか参加されない方も多くいます。その方々をどうやって参加していただくか、解決できれば。
- ・ 65歳↑のお1人様以外にも、高齢者で、町会の茶話会等に参加したいと思っている方がいますので、その方達も参加させることができれば良いなと思っています。（もちろん条件つきで）

(80点)

- ・ お互いに助け合い、仲良くすることです。

(48点)

- ・ 町会の三役を含め、若い人の人材が少なく、町会にしても本当に限られた人数しか参加してくれません。隣同士の会話が少なくなっているようです。どうにかして、多数の参加ができるようにしたいと思います。

(50点)

- ・ 見守る側、見守られる側とは一体になること。見守られる側も、手を出して手伝う方も多世代いるようだ。高齢者も長い間ご苦勞をしてこられた方です。今この豊かな社会を築いてこられた自信と信念を信じてあげて喜びをもってもらえたら、素晴らしいと思います。

(50点)

- ・ 町内のイベント、ふれあい活動に集まること。（出てくること）
- ・ 高齢者が何を求めているのかよく分からないため、まずは高齢者と話の場をもうけることかな。（一人ひとり）

(30点)

- ・ 町会館を借りて趣味の会を開いても、ボランティアで協力しても会館使用料を出すことになると積極的になれない尻込みする。

(60点)

- ・ 町会役員が高齢化して、減っていくが後継者の参加がなく今後の町会運営を考えると悩みの種です。

(50点)

- ・ 支援する人も高齢。

(50点)

- ・ 特になし。

(50点)

- ・ 特になし。

(一点)

・ 地域々でやっていくには限界があり、若い方は日常会社勤めがあり、結局支援する方々は現役をリタイヤされたり時間的に余裕のある方となると、彼らも高齢者の範疇に入る方々となり、結局町会に市や国から色々と今まで以上の要求が来るものと考えます。

(50点)

・ 町会に負担がかかっており、行政の支援が必要。今の現況は、町会に全て丸投げしているような気がする。

(65点)

- ・ 地域の包括、近所との交流。

(50点)

・ 町会として色々計画を立てて呼びかけても、集まる人は決まっている。いつも同じ人。やはり、1人1人細やかに訪問してお話を聞いてやるのが良いと思います。町会の役員としては、限りがあると思います。町会の役員も少ないので無理です。

(60点)

- ・ 地域包括ケアの実践。

(30点)

・ 社会福祉協議会では一所懸命に色々活動していると思うが、具体的に一軒一軒訪問してもらいたいし、意見も聞いてもらう必要がある。特に市役所の行政の動きが(職員全員)悪い。市長をはじめ全職員が、土曜日でも日曜日でも働いてもらいたい。民間の企業を見てほしい。

(組合が強いの無理か！)

(70点)

・ 行事等に参加する方は、どの行事にも同じ人が参加している。参加できる方はどんな行事にも参加しますが、それよりも参加できない、皆の中に出たくない、引きこもりの方への手当てをすることが大事ではないでしょうか。町会の役員、またはお手伝いする方が少ない。

(60点)

- ・ 高齢者、若い人との会話や交流。一人暮らしの人の見守り、安否確認を特に進めること。

(30点)

・ 町会活動に関心を持っている住民が少ないので、町会役員の高齢化にともない、その補充ができず、町会が消滅する事になると思う。町会活動には、町民の積極的参加が必要。

(90~80点)

・ 参加できない人方が私も行ってみたいと気を変えるには、どうしたらよいか。町会に対する以前からの思いこみ。高齢になるにつれての身体的不自由による不参加。引きこもりの改善

など。

(30点)

・ 高齢者に対する助け合い活動に理解を示す人を増やし、一人暮らしや夫婦二人暮らしの方々の見守りや安否確認の対象者を拡大したいと思うが、世の中全体での理解度を増加させるための広報活動に力を入れることから始める。(しかし難しい問題)。まずは、自分自身と家族から考えていかなければならない。

(50点)

・ 1 町会の森寿会 2 在宅福祉の安否確認 3 在宅福祉の食事会
・ 敬老会もなくなった、健康のための運動教室などをしてほしい、老人が集うたのしい喫茶とか町会でするといい、料理教室とか、昔の暮らしを語り合うとかおしゃべり会など。

(30点)

・ 日々の声掛けが大切だと思います。

(60点)

・ アイデア、人員、予算

(60点)

・ 高齢者がほとんどで、若い人が少ないが、皆さんできる範囲でお手伝いを行っている方は多いと思う。

(60点)

・ 活動資金が不足、活動に携わる人が少ない。

(50点)

・ お互いの交流、人員の少ないこと

(50点)

・ 町民の意識改革

<中央部第1>

(一点)

・ 町会員も高齢者がほとんどで、何があっても高齢者が高齢者を見る時代に入ったと思っ
てます。在宅福祉の他にも、声掛けや雑談にのっておりますが、その範囲は狭くなって
きております。これからは若い人達の時代になると思いますが、役員の若返りが必要で、若い
人に声を掛けております。

(一点)

・ 役員の方からはじめ、皆さんが70~80代と高齢者です。中でも男性は4名です。現役
の方もいますので活動は限られています。私たちも自分を守っていくのが精いっぱい。点数は
大変つけづらく思います。周りの方々は包括センターに相談、利用などデイサービスに通所
しています。理想的なことはいくらかも言えますが、私の町会では①若い方の役員がない ②
町会(加入者)が三分の一(世帯数の)単独での町内会の活性化は困難だと思っ
てます。行政の力と援助が欲しいと思います。

(60点)

・ 近隣同士のあいさつ、支援者の増員、行事参加への声掛け、町人口の増加、独居高齢者の把握、安心安全なまちづくり、病院や買い物できる場所の確保。

(90点)

・ 隣近所でお互いに声を掛け合い、尊重し、絆を深め、お互いに支え合うことが必要と思う。

(80点)

・ 若い方の参加が必要。

(50点)

・ 催し物のPR、活動できる人の拡大。

(一点)

・ 若手が町会活動に関心を持つこと。

(40点)

・ もっと若い世代の参加。

(80点)

・ 支援活動できるかた。

(60点)

・ それが出来れば苦労はありません。

(70点)

- ・ 1. 高齢者自身が参加したい気持ちをもてる。またその支援をする。
- ・ 2. 何をして欲しいのかの意識調査も必要。
- ・ 3. 町会加入者が減少しており、予算が足りない。そのため加入者の増加に努める。
- ・ 4. NPOなどを大いに活用する。

(70点)

・ 生活習慣病の予防にもなる。いかにして外出の機会を多くつくってあげるか。

(60点)

・ 日常における声掛(安否確認)は、特に必要と思われます。ぼけ老人に対する対応(金銭感覚なくなり、買い物に不十分)。近所の付き合いがなくなり、孤独感が増すため支援が必要。

(40点)

・ 現時点ではなかなか難しい問題ですが、何とかしていかなければならないと思っています。

(45点)

・ 話し合いと協力。

(30点)

・ 活動したくても、後継ぎがない。

(45点)

・ よくわかりません。

(40点)

・ 具体的な話し合いが必要だと思います。

(40点)

- ・ 町会で行うには限度があり、町会に働きかけていっしょにできればと思います。

(40点)

- ・ よくわからない。

(25点)

- ・ 町会活動に若い人が入って、いっしょに取り組んでいくことが大事になっていくと思いますが、なかなか難しい問題です。

(30点)

- ・ 町内会の中でボランティア活動募集をやっていくことも大事かと思いますが、誰でもというわけにはいかないと思う。

(30点)

- ・ 住民の意識向上と啓発。担い手（現役世代）の確保。強力な行政の後押し。

(50点)

- ・ これからの必要性を町民に十分理解していただく。若い世代に対して、協力をお願い。

(85点)

- ・ 若い方が町会活動に協力いただけますと、年寄りが無理をせず活動に参加できると思います。

(50点)

- ・ 現在若い人の町会活動の参加が少ないため、若い人に一人でも多く町会活動を理解してもらうこと。そして、今後、高齢者を支える人材の育成が必要ではないでしょうか。

(50点)

- ・ 町会行事として、納涼まつりや餅つきや、ジングスカンパティーや小旅行（バス）など、高齢者の参加があり、ある程度は支援活動が為されていて良い。しかし、自分の担当する地域の町民の中で、高齢者（或いは家族構成）がどの位の人数であるか、把握されていない。民生委員が知ってる個人情報、町会役員は知ることができない為である。つまり、地域部長と自分の担当する地域住民との交流（話し合いなど）が無いことに由来するので、この点を改善する必要を感じている。昔々、私達の親たちの時代は、隣近所の人達がお茶を飲みながら語り合っているのを覚えている。もう一度、できないものかな？

(85点)

- ・ 各自の協力です。

(90点)

- ・ 資金。担い手不足の解消。話しを聞く大切さを自覚した活動。

(80点)

- ・ 運営費。支援者不足。

(85点)

- ・ お手伝いをする方。運営費。

(85点)

- ・ お金が足りない。

(80点)

- ・ 活動資金が少ない為。

(80点)

- ・ 人の中に入るのが嫌な人が多い。もう少し表に出て、いろんな行事に参加してほしい。

(60点)

- ・ 男性が少ない。足が悪くてくるのが大変。かわりが苦手。少しずつ改善できたら、良くなると思います。

(70点)

- ・ 若い方が少ないため。ボランティア活動に参加する方がほとんどいないので、もう少し若い方を参加できるようにしてほしいです。

(80点)

- ・ 町内で高齢者の方に対して、幅広くみなさんが月々参加できる交流の場は。どこよりも設けていると思います。ただ、参加するにも自力で来れない方もいますので、他の人との会話や交流が難しい方が多いと思います。

(75点)

- ・ 100点満点にするのは無理。補助金の増額。

(60点)

- ・ 将来に教育と環境を整えていく事が大切だと思っております。幼稚園からの教育をして行かなければ、将来がないと思います。

(50点)

- ・ 町会活動に若い世代の参加協力が必要。隣近所のコミュニケーション。

(65点)

- ・ 町内での隣組としての見守りが必要。若い世代から老いの世代への連携が必要。情報の交流が必要。(難しくなっている)

(50点)

- ・ 高齢者一人ひとりに対する個別の対応が必要。理由：集団又は一定の場所に集合して実施する行事や活動に対応できない高齢の方が約半数いらっしゃる。

(60点)

- ・ 自分自身で参加しようと思ってくれること。在宅など福祉の行事に参加してほしい。

(60点)

- ・ 若い人の協力者。地域の人達のつながり。町会館は行くといつも楽しいことがあるから、行きたいと思えるような気持ちになるように、気軽な場所であること。

(80点)

- ・ 個人個人が満足な生活を送っている(100点)だと思う人がどれだけいるのでしょうか？
- ・ 介護社会福祉もだいぶ充実しております。あと20点は、「心の持ちかた」「生きる目標」

だと思えます。

(30点)

・ やはり、程度があると思えます。100点満点とは、何に対して満点なのでしょう。どれほどやったとしても、人間はOKとは言わないでしょう！！現在、自治会は老老介護です。

(70点)

・ 自分は100点だと思っていますが、人が足りず、100点までは行けません。

(60点)

・ 100点を目指していますが、思うようにはいきません。在宅したいが高齢者が多いので、ボランティアをしてくれる人が少ない。

(70点)

・ 100点満点したいと思っていますが、障害があるためできません。

(60点)

・ 若い人の力が必要。

(60点)

・ 私も87歳のため、体力的にできない。

(60点)

・ 他世代と交流できるような活動（協力者の確保と場所、活動資金の確保）。

(70点)

・ 高齢者との接触を重点に気軽に交流できる体制づくりと、隣近所との接し方も重要になると思われます。これから益々、高齢化が増える中で、無視せず関心も持っていく事がこれから必要になってくると考えられます。

(一点)

・ 町会の役員が70歳前後からの高齢者で成り立っています。何を基準としての100点満点なのか分かりません。点ではなく、%の方が良いと思えます。

(60点)

・ 各町会にいる福祉委員、民生委員と町会との連携が大切なのは！

(一点)

・ 介護保険のお世話になる前に、健康管理予防の取り組みが必要だと思えます。各町会で軽い体操、高齢者にもやさしい取り組み指導者がきてほしいです。

(50点)

・ 若い人も老人も、それぞれ一緒に活動することが大事ではないかと思えます。

(50点)

・ 転勤が多いので、町内の情報があまり入ってきません。もっと町内で情報を共有できればいいと思えます。

(80点)

・ 近所の人が高齢者の居る家をどのくらい把握しているかが重要であると思う。また、一人暮らしの高齢者がいざという時に助けを求められる人が身近に居る環境づくりを普段からして

いけるのが良いと思う。それはどんな活動でも良いと思うが、交流のできる場が必要だと思う。

(20点)

- ・ わかりません。

(50点)

- ・ 身近に支援者が居てほしい。

(80点)

・ 1. 町会館まで来る足がない。2. 広野町から来られる方は、国道278号を渡らないといけないうえ、非常に危険がある。

(60点)

- ・ 町内会の会員全員の協力体制。

(50点)

・ 刑務所宿舎居住の町会であるという特徴から、町会単位で支援等を要する高齢者がほとんど居住していない。ニーズがないという実状がある。

(95点)

・ 取り組みに満点は考えづらい。その他区の特徴や高齢者への取り組み、近所、買い物等の利便性を考慮すべきであるところ。現在の取り組みを継続することが満点に近づくと思われる。

(一点)

- ・ 子どもたち、若い大人への教育、ある程度条例的な義務体制をつくる等。

・ たしかに高齢化社会、少子化の時代であります。高齢の方には元気な方も大勢見られます。又、寝たきりの方もおります。この差は何でしょうか。病気になる日々の過ごしかた、考え方を若いうちから取り組んでいく事。そして、少子化と言えどもまだまだ函館は良いほうです。若い方をよく見かけ、子どもたちの声もたくさん聞こえます。まずその世代の人達に目を向け、特に子どもたちへの教育が必要だと思います。各小学校と連携をし、子供たちが大きく成長した時にとれる行動(例えば、困っているお年寄りに自然と声を掛けられるような心)を育てて行く必要性、(時間はかかりますが・・・)逆の発想で高齢者に目を向けるのも大事ですが、もう少し、子どもたちにも将来のため考えてください。

(50点)

- ・ 若い人の協力、参加。

(50点)

- ・ 支援の担い手が少ない

(60点)

- ・ 役員不足。

(60点)

- ・ 若い世代(50代)の役員不足。

(一点)

・ 高齢者だからといって100点満点にする必要はないと思います。逆になぜ100点満点にしなくてはならないのですか?この質問したい必要ないと思います。だいじなことは、高齢

者だからといって、これからの時代、若者と同じく接してあげないと失礼になります。高齢者をあまくみては一生懸命頑張っている高齢者に失礼です。

<中央部第2>

(30点)

・ 身近にいらっしゃる方に声掛けをし、会話を通して何かできることを深入りせずに助けるようにしていくといいと思う。

(50点)

・ 気軽に交流できる場所。雪かきの手伝い。近所の見守り、安否確認。

(50点)

・ 町会活動などに関心をもっていただく。

(90点)

・ 町会館に自由に入出入りして話しをしたり、お茶を飲んだり、何かなければいけないようなところはダメ!だと思う。話し相手、相談、小さなことでも気軽に行けるように。当町内では声掛け(あいさつ)あたり前の事だけど、大事だと思うし、かけられた人は「自分の事知ってるんだ」と思って、嬉しくなると思う。

(70点)

・ 相手の話を聞き、自分を本当に信用してもらい、接点を作れば良いと思います。自分も70歳以上ですが、それ以上の高齢者から何でも相談され、解決できないと思ったら包括支援センターに助けを求める。

・ 見守りの件ですが、係の人も近所だけ、道路渡っての行動は大変だと思います。電話確認もできますが、やはり顔を見て・・・家の近くだと、カーテン開いたア一元気だ、電気ついて元気だと近所に確認できます。それを早く教えてほしいです。

(50点)

・ 年数回の集まりでも、出席する人は決まっていて、なかなか出席するかたは増えない。どうすればいいのか。何が必要かが分からない現状です。

(80点)

・ 町内に住んでいる若い世代の参加が必要だと思う。特に、30代~40代。高齢化はまったなし。

(70点)

・ 役員も高齢のために、なかなか思うようにいかないのが本当のところですが、もう少し若返りをはかり、もっと活動を広げてゆくことが必要と思われる。

(80点)

・ 役員も高齢になり、体力に不安を感じます。若い人の協力が必要と思われます。なかなか協力者がみつきりません。

(90点)

・ もっとたくさんの方が手伝いしてくれると良いと思います。

(70点)

- ・ 若い人に町会に参加してほしい。

(90点)

- ・ 働き世代のさらなる参加。

(65点)

- ・ 現状では支援を受ける側も支える側も、高齢者となっている。若い世代の協力を得ることができる体制が必要と思う。

(70点)

- ・ 若い方の支援者がいない。
- ・ 町会役員として若い方をお願いしているのですが、なかなか協力者がいない。
- ・ 現在の町会役員も高齢者が多く、老老介護状態で心配している。

(90点)

- ・ 役員が高齢化して、町内全体を把握することが困難になっているうえ、高齢者の脱退、アパートの新入居者が入会していない。これからは、行政が中心となり、人づくり、まちづくりをしていかなければならないと思う。

(70点)

- ・ 参加者が固定されているように見えます。

(100点)

- ・ この点数は、参加する側が採点することで、私たち支える側としては常に100点と思って活動しています。

(80点)

- ・ 町会加入率が減少しています。広報などでは、各戸配布をしています。(年に6回)例えば、津波避難場所が1か所増えた事のお知らせでも、加入している方しか分かりません。安否確認や支援活動も、個人情報ネットワークになり、どこまで入り込む事ができるかいつも話題になります。高齢化が進むうえで心配です。

(70点)

- ・ 高齢者といっても個人差があり、現在の取り組みを維持しながら進めて行くのが良いと思うのと同時に、さらに見守りながら、声をかけあってゆくことが大切だと思う。

(80点)

- ・ 支える側の協力者の確保。交流する場をもっと多く設ける。行政の側より積極的な理解と取り組み支援が必要不可欠。

※ 市の福祉政策に疑問と不満を持っています。(もっと現場と実態を検証すべき。まだいろいろな意見はあるが)

(80点)

- ・ 出てこられる人はいいが、出てこられない人、出不精の人もある。

(75点)

- ・ 若手協力者。

(85点)

- ・ 町会運営のための、手を貸してくれる人間である。

(50点)

- ・ お互いに協力して助け合う気持ちが必要であると思います。

(50点)

- ・ 企画や調整を担当する方がいないと、場当たりの支援活動になりがちだと思います。

(70点)

- ・ ご近所との交流や見守りが重要と思う。積極的に支援活動に参加すること。

(50点)

- ・ 活動支援者の交流を増加して、種々対応できればと思う。

(70点)

- ・ いっしょに活動してくれる人の掘り起こし。

(一点)

- ・ 若い人の参加です。

(50点)

- ・ 足腰が弱い人のためにどうするか？

(50点)

- ・ ボランティアの掘り起こし（特に若い人を）。

(一点)

- ・ 信頼関係と努力。あくまで評価は相手を感じるの難しい。無理なく自然体で行動すれば、お互いにとって良いのではないか。

(30点)

- ・ 自身も高齢なので、理想と現実は大違いだと思います。特に声掛け安否確認は重要。町会行事にできるだけ多くの高齢者の参加が必要だと思います。

(70点)

- ・ 若い人の参加が少なく、高齢者が高齢者を見守っているからだだと思います。若人の参加を望みます。

(70点)

- ・ 役員の掘り起こし。特に60歳以下の若い力。

(80点)

- ・ 日常的には困難であり、自身も年齢的に難しくなっている（訪問）。100%はあり得ない話だし、したがって100%は努力必要がない。ほどほどに・・・しかし、いづらか頑張ってみたい。

(80点)

- ・ 支援活動できる人が多くなってほしい。

(80点)

- ・ みなさんと協力しあって、何事にも出席して頑張りたいと思います。

(80点)

- ・ 支援してくれる人の数をふやさなければ、何もできない。

(20点)

- ・ 質問(1)のように、求められることの多さに対して、自分たちは何が出来ているのかを思うと、落第点だと思います。しかし、町会役員として時間にゆとりを持てる年代となれば、殆どが退職等の高齢者です。自らの自立と、ほんの少しの余力を町会活動に向けています。

(60点)

- ・ 「支える側」の人員を増やすこと。ご近所付き合いが少なくなっているの、異年代との交流がなく、気軽に頼みごとにもできないと思う。「60歳退職であとは地域で」という人が少なくなり、仕事を続ける人が多く地域で活動する人が少なく、地域のリーダーが受け継がれにくい。

(60点)

- ・ 町会会館があれば趣味活動の支援ができると思うが、現在では不可能に近い。若いリーダーの養成が必要だと思うが、該当者がほとんどいない。

(70点)

- ・ 高齢者も本当にご近所以外、自分を出さない。信頼関係を作っていくのに、時間を必要としている。まず信頼をして、相手にも信頼してもらう必要があると思います。

(50点)

- ・ 行動力だと思うが、男女役員10名の平均年齢78歳を考えると、若手役員(65~70歳)の育成の必要性を感じるが先行き不安だらけ。

(80点)

- ・ 高齢者が多くなっていく現状から、これら支援活動をする世話役(町会役員)のなり手が不足している現状です。町会役員の成り手不足については町会発行の広報等において募集したり近所の(町会内)の役員他に依頼しているが、不足しております。

(30点)

- ・ 高齢者が高齢者を支えている状態でいずれ限界に達する可能性があります。少子化対策が必要だと思います。若い人の力が必要です。

(60点)

- ・ 市内全般にいえると思うが、町会役員、特に福祉委員の方々のボランティアに対する考え方、意識に問題があると思う。上から目線で、相手の気持ちを汲めない人、個人の考えで行動してしまいトラブルの原因になる人、相手を好き嫌いで選ぶ人、色々いるようです。福祉委員とは?ボランティアとは?知っているようで分からないまま委員に選ばれた人が多いと思う。研修会、勉強会を持つと良いが、なかなか参加できないので一人一人に手引書やパンフレットを配り、委員としての心構えや知識を身につける機会を与えてほしい。数年前にも要望しましたが。

(50点)

- ・ 支える側の人が高齢者になってきているので、少しでも若い方の協力が必要と思う。

(50点)

・ 町会への加入減は個人の問題でもあり、如何ともしがたいが、加入者でもつながりを持つのは(町会活動に参加する人数は、半分くらいかも?)難しい。

(60点)

・ 町会役員の相互理解。

(60点)

・ 高齢者でも、退職せず働き続ける方が多くなり、自分のことで精いっぱいになっている。
・ 現役世代の方のかかわりが必要となっている。

(20点)

・ 行政(市役所)の全面的な資金、人材、全てにおけるかかわりを期待する。市OB・OG、道OB・OG、国OB・OGの積極的な参加。

(70点)

・ 助け合う

(65点)

・ 地域住民全体としての取り組みが必要であり、そのために、どのような啓発活動を行うか、個々の町会としてではなく、行政が率先して取り組むべきだ。(行政事務の代行業務が多い)

(70点)

・ 支援を受ける側が気軽に参加できる仕組みが必要。町内会に今まで関わってこなかった人たちが集まれるような状況が大切だと思われる。

(50点)

・ 夏祭り等の行事で活躍されている高齢者の方を見かけます。行事を行うためには、調整準備等の打合せが必要であり、そのような場でお互いの親交を深めることができます。

(50点)

・ お互いに話をしてくれることを望みます。友達をつくることです。年をとると近所にいる人をたのみにするのですから、そのような人をたくさんつくります。心を許せる人を大切にしてください。

(50点)

・ 町会役員の増加。役員と高齢者の接点を増やす。

(80点)

・ 人材、人数の確保。

(80点)

・ 参加者の顔ぶれが決まっている。そうじゃない人にも参加してもらいたい方法がないだろうか・・・

(80点)

・ 支える側の介入を嫌う方もいるので、相手の相談に前向きになってくれないと・・・

(70歳)

・ 私自身、何をしてもいいかわかりませんが、高齢者との会話を多く持ちたいと思います。

(75点)

- ・ 満点は無理だと思います。支える側の介入を拒む方もいる点です。

(60点)

- ・ 先頭に立っている役員の高齢化で、活動が鈍っている傾向があるので、これを補う若い後継者の育成が必要。ただし、参加意欲のある人が少なく、人集めが難しい。

(90点)

- ・ 雪かき奉仕活動の普及。外出支援活動の充実。

(70点)

- ・ 町会役員の成り手がいない。できれば、市職員、学校関係の退職者等の人達が進んで参加してくれるようになることを願っています。

(80点)

- ・ 若い人の協力。

(70点)

- ・ 100点にするには、各個人の要望に全て対応できれば100点になると思います。

(60点)

- ・ 町内を地域として心地よく暮らしていくためには、自らも少しずつ他の人のために労力などを提供することが必要という認識を持ってもらうように日々の活動を通して、広めていく努力を続けていかねばならない。

(80点)

- ・ 各人の支援意識のさらなる向上に努める。

(60点)

- ・ 高齢者の支援の担い手の確保。高齢者の要望の的確な把握とそれに対する適切な対応。高齢者の能力の活用策の実施。

(70点)

- ・ 支える側(町会役員)も60歳後半で人数も少なく、後継者が育っていない。若い人が町会活動に積極的に参加してもらえるようにしなければ町会自体が消滅するのではないのでしょうか。

(80点)

- ・ 地域高齢者がどのような支援を必要としているかを把握し、活動範囲の拡大を図る。支援の担い手の増員し、活動効果の向上を図る。

(80点)

- ・ 満点にするのは、かなり難しいと思う。基本的には町会では無理なことの方が多いのでは。よく頑張っていると思います。

<東央部第1>

(100点)

- ・ 町会としても、又役員の一人名としても、現状でできることはやっていると思っている。会

館が町会にないので、あれば町会としてまだ濃密な活動ができることがたくさんある。

(50点)

- ・ 若い人が参加できる環境づくりをして、積極的に活動を呼びかける。

(50点)

- ・ 町会会員の方が、いつでも自由に入出りできる場所が必要だと思います。

(30点)

・ 昭和30年代の隣近所の付き合いを、決して全否定するものではなく、必要以上の相互干渉もある煩わしさを除くと、「日本古来からの文化」のような気がしています。年に3回程度、町会主催の「ふれあい交流会」を開催していますが、参加者は、固定化、新規参加者がなく、「向こう三軒両隣」の関係復活や隣近所の「絆」の仕掛けは、残念ながら思惑通りには、運んでいませんが、小さな歩みを止める考えは、まったくありません。当節、高学歴ではあるが、真の文化人が少なくなったことが、隣近所の関係や絆を希薄にした要因と思われるので、全市の182町会や老人クラブが、目に見える効果ばかり追わずに、腐らずに小さな連携を図っていくことが、10年先の「地域関係」を築くと信じています。

(50点)

- ・ 町会の役員等が常集って相談する場所(町会館)の設置が急務だと思います。

(一点)

・ 本町会は会館もなく、町会加入率も低いという現状の中で考えなくてはならない。個人情報問題もあり容易なことではないが、町会の高齢者の生活実態の把握が必要。「どこに」「だれが」「どのように」暮らしているか、又、居住する高齢者の方々の町会に対する希望、願いなど意向を掴み、対策を考える必要があると思われる。

(30点)

・ 人や地域を競争、対立させる世の中で「100点」満点など夢のような目標である。やはり既存の町会その他の組織が高齢者の急増に対応するよう充実することが第一では……。そして、それを保障する町会などの施設の充実が、高齢者が足を運びたくなるような場が大切だと思います。行政の人が「自助」を安易に言うことは、社会保障を投げ棄てることに通ずると思います。

(50点)

- ・ 向こう三軒両隣の和の拡大。

(50点)

・ 函館市民生児童委員等は、町内に住んでいる高齢者たちの情報を収集すべく協力を求めるが、まる秘状態で、情報活動が行き詰まっている。町会活動のあり方を考え直さないと、壁を打破できない。苦しんでいる。

(50点)

・ 当町会が高齢者・単身者が多く、助け合いが必要なところですが、1,112世帯のうち町会員は530世帯です。会員以外の助け合いが必要が多いのです。町会の枠を超えて活動しなければなりませんね。民生委員との連携がない。以前(平成8年)に在宅福祉委員会が作ら

れたが活動は殆どなし。今年新会長になり、全般にわたり頑張っでやっています。だが、この在宅福祉については高齢者等の把握もできず、問題が大きく、在来の委員会はなしにして、今後この問題に取り組まなければならないと考えながら、手の打ちようがない状態です。一番必要性があるが面倒なことです。会員だけでも。

(一点)

- ・ 町民の皆様の協力が必要だと思います。

(一点)

・ 子供達と同様、朝あったときは挨拶からはじめ、簡単な声掛けもして隣近所との和を広めて行きたいと思います。

(50点)

- ・ 各々が、しっかりした意識を持つこと。

(20点)

・ この町会では過去30年くらい活動が無く、住民同士の付き合いより、昔からの友人知人との交流を続けており、特に住民との付き合いを重く感じない人が多くいるように思われる。唯一ある在宅福祉でも対象者になるのを拒む人、対象者にありながら茶話会や食事会など出席しない人が多数いるのが現状です。町会として全ての高齢者を見守ることはできないことです。活動資金並みに集会所があれば前進すると思います。

(0点)

・ 地道に信頼関係を持っていく必要があると思います。でも実際やっていく中で、とても難しさを感じています。本音はなかなか分からないし、いいと思っても、後で陰口を言う人もいます。その時(場)は、いい顔し、嬉しいというか感謝の言葉を口にしても、他で全く反対の事を言う人もいます。何が必要か、本当は私の方が知りたいです。又、地域に人のために役立ちたいと思っている人がいる事が必要とも考えます。自分の事しか考えてない人が多いと思います。(すべて自分にとっては勉強かもしれません)

(40点)

・ 当団地も入居者の出入りが以前よりも多く、新しく入居されてきた方の中には対面しても挨拶もしない方が多くなってきていると感じます。最近の核家族の影響で、人間関係が希薄になり、又、人それぞれが色々な事柄に対し無関心でいることや価値観が変わってきているのではないか、これらの様々な原因が影響しているのではと考えます。まずこのような状態を少しずつ変えていく事が必要だと考えられます。

(40点)

- ・ 集会場がほしい(建物内に)。

(一点)

・ 言うは易し、行うはにくしである。自分の生活で手一杯という人が多いと思う。確実に町会離れが進行している気がする。隣は何をする人ぞで、ここの部分は都会化。近所づきあいも希薄化している。マンション、アパートの町会活動の率はきわめて低い。

(一点)

・ 中年層の所属意識を復活させる。マンション等の住民への何かを・・・。具体的には、地域の者だけでは効果が生じない。

(一点)

・ 自治体の働きかけ。

(一点)

・ 若い人たちの町会への参画。

(30点)

・ 隣近所の声掛け

(50点)

・ 経済援助。

(70点)

・ お互いの理解。協力しようとする気持ち「推進活動」。必ず少数だけど反対する者がいる？健康が第一と思い、いろいろな運動を推進したい。

(70点)

・ 住民の協力。

(60点)

・ 50代、60代の人たちの積極的な参加と活動。

(70点)

・ 町内に施設がないこと。

(70点)

・ 1. 回覧板に頼らないで声掛けを必ずする。

2. なんでも話し合える近所づきあい。

3. 会館がないので集合できる場所。

4. 助け合いの心。

(70点)

・ 見回っての声掛け。若い転入者の協力。

(50点)

・ 若い人たちの参加。

(80点)

・ まず自分が元気でありますよう努力します。

(50点)

・ 1. 一人の力は弱い。しかし、多数力を合わせれば強くなる。

2. 夢に向かって生きる(100歳まで生きる目的に)。

3. たとえ歩みは遅くても、堅実に進むほうに力を一杯つくしたい。

(30点)

・ 町会役員、民生委員、在宅福祉委員、包括センター等が一つになっての話合い、行動していく必要。100点に少しでも近づけると思います。

(一点)

・ 話す相手もなく精神的に落ち込み、病院通いになっているかたを多々見受けられます。気軽におしゃべり等のできる場所を設けることにより、引きこもり等の解消さらには医療費の軽減につながるのではないかと思います。

(50点)

・ 行政の支援。

(10点)

・ 町会で見守り会をつくり一人暮らしの方だけでなく、となりの町会と連携し交流をはかるよう行政指導をお願いします。福祉のあり方をもう少し考えていただかないと、この社会では残念です。ボランティア精神を考えるとときが必要だと思う。

(70点)

・ 活動するための人材がもっとほしい。活動するための経費がもっとほしい。

(60点)

・ 予算がない。

(60点)

・ 茶話会等を増やす。そのためには(市は予算を増やす)。

(70点)

・ 協力者が増える事

(30点)

・ 支える側の人数確保。行事に参加希望者に制限しない(例えば、二世帯住宅の場合であっても、環境的に親子関係はくずれて寂しい人など。行事の場までの足の確保他介助。予算。場所。

(80点)

・ 敬老会がなくなり、サークルや気軽におしゃべりする時間が少なくなった様です。なんとか再開できると良いと思っています。

(70点)

・ 近隣住民とのコミュニケーション。

(一点)

・ 町会は昭和37年発足。会員も若いので、毎年赤川水源地にバスで、運動会、夏休み子どもたちと体操等、町会館で敬老会、ある時迎えに行ったら玄関で倒れて死亡してました。警察事件。3年も続いたので、役員会議を開き、町会の規約を変えて、行手中止にしました。現在に至ります。敬老の日は対象者にお祝い品届けてます。対象外には災害用パン、水等届けております。町会費100円(月)発足より現在まで。

(30点)

・ 交流する場所が必要である。趣味を通して交流を深める。

(40点)

・ 町内での声掛け交流。若い世代へ町会地域のかかわりを推進。支え合う各人の意識の変革。

町会、個人が金銭的負担のない取り組み支援を市にもお願いしたい。集会所のない町会のため、冬の活動が難しいので、何か、アイデア等、他の町会の行っている活動を聞いてみたい。

(50点)

・ 町内の住民が気軽に集まれる場所が必要。場所があれば、町会活動の計画もいろいろ企画できる。特に一人暮らしの高齢者に対し、楽しく参加してもらい、いきいきと生活できるよう手助けしたい。

(30点)

・ 若い人(60代)の方々が団地会のボランティアに参加望む。高齢者が気軽に交流できる通いの場があれば良い。

(60点)

・ 会館施設が必要であり、小さな会合が普段できることがまず第一段階と思う。当会役員は非常にボランティアに意欲があるが自由に会合できず、準備作業がないため、苦勞している。高齢者の集まる機会を増やす場がほしい。現在はできるだけ公共施設を利用している。活動に努力しているところである。

(一点)

・ 一人の役員の独歩より、役員一同が意気投合した一歩の前進を願うものです。仕事は求めて「やる気で・根気で・元気で」あれば、道は開けて結果が期待できます。点数ではない?と思います。丸藤さん頑張りましょう!すぐシベリア風の風が元気になる季節となります。ご自愛のほど、よろしく!

(10点)

・ 私もそれが知りたい。まず町会役員の充足が必要と思う。やりたいことがあっても動けないのが現状。

(30点)

・ 道路拡幅工事のため、町内を去り、急に町会を手伝うことに私はなりました。町会の仕事を手伝うことになり、町会を手伝う人数の少なさに驚きました。又、参加してくれる人も少なく、7~8名の人数で活動できることは限られています。町内の役員を増やすことが必要と思います。

(30点)

・ 特に町内の高齢者のための支援活動はありませんが、半年ごとに町会費を集める班長さんを、例外を除いて全ての家庭にお願いしているので、その仕事をしていただくという役割があり、それが生き生きと暮らす活動にあたると思うので、その30点です。100点にするためには、高齢者同士が気軽に集まって交流できる場を設け、外に出る機会を減らさないことと、地域のボランティアの場を作り、多世代で交流したり、人の役に立つという生きがいにつながる活動することだと思います。当町会の目の前には、フットボールパークができたので、定期的に外周をウォーキングする会や、福祉コミュニティができたなら、高齢者施設でのボランティアをするなど思うところがありますが、町会に参加してお手伝いしてくれる人の確保が難しいところが一番の問題です。

(30点)

- ・ コミュニケーション。

(一点)

・ 場所。日常的にコミュニケーションがとれていること。高齢者が多いので雪かきなどその他の活動も体力と気力のある人が必要。

(50点)

- ・ 運営に携われる人がいること。運営に必要なお金と場所があること。

(20点)

・ 日吉福祉コミュニティ構想があり、早期整備を望むが、当自治会には公共施設（屋内）がなく、唯一、自治会が管理する小公園のみがコミュニティの場となっている。この公園の隣接地が、今、開発されようとしているが、隣接地の一部を老人菜園（屋外活動交流拠点）の場として、自治会に無償貸与できないか。

※当自治会は、世帯数が最小にして高齢化が著しく屋内施設（会館）の建設は到底無理なことは承知している。

(80点)

・ 高齢者のライフスタイルや人間関係についての希望は多様であり、地域社会や近隣との関わり方への希望も個人によって差異があると思う。高齢者を対象者とした施策の企画・実施に当たっては、個人のニーズの違いを考慮する必要がある。

高齢者と地域社会近隣とのつながり（日常の付き合い、行事参加、緊急時の対応、生活支援など）を密にし、よびかけと状況把握に心掛けていきたい。

(一点)

・ 自治会の状況を考えれば、100点満点にすることはできないと考えます。現在行っている、健康や介護予防等に関する情報提供をさらに密にする。高齢者家庭に対する安否確認、雪かき等を今まで以上に積極的な協力を行う。当自治会の所在地と隣接する場所に計画されている「福祉コミュニティエリア」が整備された時に、自治会の高齢者が利用できるサービス、施設等の情報をいち早く提供する。

(一点)

- ・ まわりへの関心。

(70点)

・ 高齢者の自覚（自助）。生活環境を大事にボランティア精神を持つ。50～60代の方が活動する自覚。具体的に①仕事②親族③友人④地域を大切に思い、協力し、余力を地域に使う。

(70点)

- ・ 支援者をたくさん増やして、老老介護をなくすことです。

(50点)

- ・ マンパワーの発掘。

(80点)

- ・ イ. 代読・代筆などは、必要な研修（函館視覚障害者図書館において実施の実績）を受

けるなどして、高齢者等のニーズに積極的に対応する。

ロ. 当町会は独自の町会会館を所有していないため、多岐多様な活動を行うことが可能な環境設備の整った施設があると、さらに活発な諸活動が実施できると思われま。 (災害が生じそうな事態に対応する避難所の役割を果たす目的も兼ねる充実した設備)

ハ. 町会が地域高齢者と学生などとのコミュニティとしての存在の役割を持つ。

(50点)

・ 人材。きっかけ。場。

(90点)

・ 若い方の協力が必要だと思います。

(80点)

・ もっと色々な人による関わり (同じ方が多方面に参加してくれている)。

(60点)

・ 支援の担い手が高齢となり担い手不足が大問題です。これが解決すれば今よりもっと高齢者のために動けると思っています。

(100点)

・ どなたとでも、笑顔でもって、仲良くすることと思っています。

(90点)

・ 若い人の参加が必要。

(70点)

・ 町会への加入を推進。町会員皆様が互いに思いやり、助け合う気持ちを持つ。

(80点)

・ 高齢者皆も、もう少し積極的 (自発的) に仲間に入って欲しい。

(70点)

・ 行事活動に参加しているのは一部の高齢者であり、これがもっと多くの人に参加することが望ましい。ただし、何をすればとか、それを支援する体制をつくれるかどうかなど課題は多い。

(30点)

・ 町会も高齢者が多い為、活動に協力できる人が少ない。若い人がなかなか町会への手伝いが少ないのでは。

(70点)

・ 声かけ運動等を行っていますが、高齢者の一人暮らしの方が、もっと積極的にこの様な会に入って欲しいと思っています。特に市営住宅などでは、隣近所の人と顔を合わせることも少なく、尋ねていってもドアも開けてもらえない方もいます。

(50点)

・ 現在では高齢者が高齢者を見ているようです。もっと若い人が参加してくれたらと思っ

ます。

(50点)

・ 年齢の方々は自分の本心を余り出すことがないので、どの辺まで困っているのかこちらとしても分からない。

(60点)

・ 少子高齢化であまり外出しない老人が多く、茶話会等で気軽に交流する様な取り組みをする。

<東央部第2>

(50点)

・ 高齢者がイベントに参加出来る環境を作る。そのためにはどうしたらよいのか？高齢者が何を望んでいるのかを考えて、イベントを実施する。

(70点)

・ 高齢者と茶話会などが少ない。

・ 高齢者と小人の話が少ない。

(60点)

・ 若者の町会活動への参加、町会への未加入、町会行事への無関心さ、町会役員を引き受ける人が少ない。

・ 認知、精神の人が増加している事と体力のため外出しない老人がいること。

(60点)

・ 町会行事への積極的な参加をする事。(町会未加入が多数のため)

・ 役員の資質の問題。

・ 一般住居と団地入居者との不仲にあると思います。

(60点)

・ 町会役員の協力が少ない。(古くからの企画・行事で新たな取り組みに反対意見が多い)

(90点)

・ 若い役員やボランティアが必要です。高齢者を見ている人たちが高齢者です。

(60点)

・ 個人情報等の問題も有ります。又、他人の団入を拒む人が多くなっている現状で難しいと思います。まずは近所、近隣の人との交流から始まります。声掛けから始めたいと思います。

(65点)

・ 気軽に集会できる場が少ない。

(70点)

・ みんなの協力が必要です。

(50点)

・ 皆さんの協力が必要だと思います。

(60点)

・ みんなの協力が必要だと思います。(助け合う心)

(60点)

・ 町会では何にも活動はしていませんが、私達（5人）は（在宅福祉委員）社会福祉協議会の在宅福祉委員をしていますので日に2、3回、一人暮らしの家庭をまわり安否の確認をしています。以前は年に3回集まって会食をしていましたが委員又は参加者も高齢者になり集まるのが大変ですので現在は年に3回弁当を配る。高齢者が増加しましたので若い人の移住が必要だと思います。

（60点）

・ 若い人がこの町に住んで来れることが必要。

（50点）

・ 若い人が増えないと難しい。役員の方がもっと積極的に活動していくことが必要だと思います。

（一点）

・ 若い人の移住が必要だと思います。

（50点）

・ 在宅福祉委員として高齢者宅の訪問を月3回行っている。

・ 今後の事はわからない。

（50点）

・ 在宅福祉委員として一人暮らしの家庭訪問を月に3回やっています。

・ 今後の事は良くわからない。

（50点）

・ 高齢者自身の意識改革（自ら積極的に外に出て、交流の場を求める意欲…特に男性に必要）。

（50点）

・ 福祉に対してのボランティア養成講座。

・ 健康づくり。

・ 地域づくりをし、暮らしていける安心・人を育てる。

（30点）

・ 一人ひとりの思いやり。

・ 支援する側も高齢化。

（40点）

・ 高齢者自身の行事参加意欲の向上を計る前に、声掛けの強化。

（85点）

・ 気軽にできる活動を企画して参加を求める。

（60点）

・ 女性の役員・協力員が町会役員の5割は必要。男性の役員では、身構えられてしまう。

（40点）

・ 若い人の力。でも若い人もお金がない。時間あってもボランティアは無理。→有償ボランティアを市など行政が負担するなど。人と会いたくない人もいるので、かわりは難しい。

（45点）

- ・ 積極的に参加する方が少ない。
(70点)
- ・ 自主的に参加してくれると良い。
(50点)
- ・ 若者の協力及び近所の協力体制。
(20点)
- ・ 敬老会だけではなく年2・3回でもカラオケ大会などできればいいと思います。大きなテレビで昔の映画などみたりお茶会などもう少しできればいいと思います。
- ・ 軽い運動などできる施設、新しい会館が欲しいです。特に男性はなかなか参加しないので、まずは大きなテレビで時代劇の映画会を開いてみたいです。
(70点)
- ・ 色々行事に参加し気軽に交流できる運営。
(80点)
- ・ どこまでやれば100点満点か、私には判りません。
(40点)
- ・ 指導者がいない事。
(20点)
- ・ 当町会も少子高齢化が顕著である。高齢者は体力の衰えで歩行が困難となっていており、そして移動手段も持っていない。(車等)一方、若年者は高齢化の活動にあまり感心がなく、また協力もない。
- ・ 今後の課題 ①企画立案、指導する適任者がいない ②活動するための資金が乏しく、図書館市の助成が必要である。 ③野外活動の場合適当な場所の確保が困難である。
(60点)
- ・ 若い人材が必要だがいない。
(70点)
- ・ 町会の積極的関与
(90点)
- ・ 誘っても各種の会に参加しない。(家に閉じこもり)
- ・ 役員、活動者の高齢化、後継者の育成不足。
(80点)
- ・ 健康な高齢者は積極性があるが、一方では病気になると精神的に参ってしまい、会合等にも参加しなくなるので仕方がない事と思う。元気な高齢者を相手に現在は100点満点の活動を行っていると思う。
(90点)
- ・ 若い人の活動家を育成することが必要。
(90点)
- ・ 今の活動を継続していくこと。

(70点)

・ 多世代と交流できるような活動を進め、高齢者への支援の担い手を育てていくことが必要と思う。

(50点)

・ 支える側の実質的な活動可能なメンバーの確保が必要です。常に頭数だけでは…。
・ 支援される側の要望がどのような事なのか把握し、押しつけにならないよう配慮し、支援する事。

・ 経験豊富な高齢者の活躍を大いに生かし交流する事。

(50点)

・ 笑顔で接する事を感謝されてる事を日々実感しております。それには個人のプライベートに入り込まないように感じました。

(95点)

・ 残りの5点の為には、是非とも市民の、しかも若い方の力が必要不可欠だと思います。若い方の色々な考え方、アイディアなどは回覧板にアンケート用紙と一緒につけて回せば、少しは返答が期待できるのではないのでしょうか。中には高齢者では思いつかない様なおもしろいものがあれば、発展させていける、いい機会になると思います。

(75点)

・ 若い人の参加が必要。

(50点)

・ 高齢者が多い地域なので支援する方がもっと増え積極的な活動もしてほしいと思います。

(50点)

・ 高齢者の支援やボランティアの方を増やす呼びかけが必要だと思います。

(50点)

・ 支援者が多くいることが必要です。

(70点)

・ 活動年数が多いだけでは新しいアイディア等がなく、「まんねり」化していて地域の高齢者の方が日頃どんな事を希望しているのか把握しにくい点があり、又役員のなり手がおらず高齢化もあり、思いどおりの活動が難しくなっています。日頃包括支援センターさんのおかげで町会にはあまり期待していない等の意見も聞こえる中、私達の役割のむずかしさを感じています。

(60点)

・ 支える側の人数がもっと増えると良いと思います。

(50点)

・ 会員の高齢化による若手に多数の参加！！

(50点)

・ どこまでが満点か？

・ 地域の中には高齢化世帯や一人暮らしで何らかの事情によって不安を抱えて暮らしている方が多数いると思います。こうした高齢者は隣や近所に相談したいと思っても迷惑を掛け

てはならないと思い自分で抱え込んで話せない人もいると思います。高齢者の介護度に関係なく住み慣れた自宅でも適正なサービスや相談を受けられるような窓口があって、近くに住んでいる者が、生活の変化を察し連絡した場合でも直ちに介護サービススタッフが駆けつけ対応し、親身となって相談してくれたらゆとりを持って安心して生活を送れるのではないかと思います。

(一点)

- ・ 元気な高齢者が多いので、よくわかりません。

(50点)

・ 色々な方がいて、町会で支援できるのも限られているので現状維持がやっとというところ
です。

(60点)

・ 支える側も高齢化しつつある現状では若い人の力が増えてくれると良いと思われませんが、現状若い人たちは仕事があり、その中でも時間を見て力を貸して下さる方もいますが、なかなか思う様な人数がいなのが残念です。

- ・ 何が必要かといわれれば「人」だと思います。

(100点)

- ・ 現状以上のことはできないので100点だと思います。
- ・ 自分の事だけでも人に頼らずにやっていこうと思って、いろいろ気をつけていきます。
- ・ 若い人が欲しい。

(60点)

・ 高齢者実態の把握 町会内の情報に死角、空白を作らない為に、各班長、区長の人脈を活用する(孤独の防止)。

・ 町会員の地域に対する「愛着」「ほこり」を持ち、「強い絆」を持つ意志を育てたい。(目標は高いと思うが…)

(50点)

- ・ 町会役員欠員の補充。
- ・ ボランティア活動の意義のPR。

(30点)

- ・ 資金、町会役員の充足及びボランティアの確保。

(30点)

・ 活動に自主的に参加している人に対しては100点。
・ 参加できない(移動が困難、気持ちが内向的、活動に消極的)人にとっては低得点(30点?)

・ あくまでも一人ひとりの実態に合わせた取り組みを考えると、より弱者への活動や誘いの工夫が必要と思う。

(50点)

・ 生き生き暮らすとは… 個人の向き合い方、病気、金銭、家族問題等をかかえ知られたくない聞かれたくないと云う高齢者が多い様にも思います。難しいとは思いますが、このアンケート

ートにもありますが多世代交流がとても良いのではと思います。

(70点)

- ・ となり近所が助け合っていければ。

(50点)

・ 高齢者が家に閉じこもらないように活動できる場所を定期的に行えるような場所の提供。
また、参加人数の増加をどうしたらよいかを考える。

(70点)

- ・ 高齢者自身の意識改革と積極性が必要である。
- ・ 支援側も高齢化が進んでいるので若い方の参加が必要。
- ・ 町会も担い手の発掘を真摯に取り組むべき。

(50点)

- ・ 近所づきあい。

(70点)

・ 常日頃からコミュニケーションを図り相互理解と信頼関係を作ることが最も必要なことか
と思います。

(70点)

・ 高齢者側からの発信が欲しい。在宅福祉委員会の対象者も独居および高齢者世帯だけではなく、子供と同居していても対象とした方がよいのではないか？

(75点)

- ・ 町会役員が高齢化しているため活動が限定されるような気がします。
- ・ 若い町会役員の選出が今後の課題です。

(20点)

- ・ 町会として、これから支援活動に取り組んでいきたい。

(50点)

・ 地域の高齢化は同時に支える側の高齢化というむずかしい現実も抱えています。まず、町会役員が先頭に立って一人でも多くの支える側の人達を確保することが必要だと思っています。

(50点)

・ 役員も高齢化しているので、もう少し若い人にも、町会の活動に参加してもらって役員になってもらえれば良いと思います。

(一点)

- ・ 活動や支援するための人員

(70点)

- ・ 町会館ありません。町会館あったら(100点)満点になると思います。

(45点)

- ・ 交流会。
- ・ 町内での集まりを増やす。

(70点)

・ 高齢者が簡単に参加できる交流の場が近くにあるといいと思う。手続きのいらぬ施設で温泉など安くて気分に参加できるもの。

(40点)

・ 若者と高齢者との交流とふれあいの場を増やす。又、支援活動に参加する。

(70点)

・ 金銭的な問題。

・ ヘルパー利用。

(50点)

・ 協力。

(50点)

・ 予算の確保。

・ 人員、協力者の確保

(85点)

・ 地域での交流かな！

(30点)

・ 他の地域の活動を参考にしたり、民生委員の方から情報を集めたりする。

(50点)

・ 意欲の問題である。これを喚起するには、どうすれば良いのか？

(70点)

・ 活動資金の不足。

・ 個々人のニーズの多様な考えで100点満点を現在の所見いだせない。

(60点)

・ 年々高齢化が増加しており、これからに対する町会費の半免や全免を行っていますがしかしこれが町会運営面に影響してきています。在宅福祉委員会等と話あいながら今後も安心安全なまちづくり目指して活動を展開していきたいと思います。1人暮らしの方に対する給食サービス等も思っています。市に対しそのための設備の助成もお願いしたい。

(一点)

・ 都会的な人がふえ、介入を拒絶するので活動しにくい。

(80点)

・ 活動する資金不足。

(20点)

・ 町全体が漁師なのですが年よりが多いのでおばあちゃん達も皆さんのまれて行ってますので町会との活動も思う様な活動ができません。

<北東部第1>

(一点)

・ 100点満点の基準は何なんでしょう、ペーパーテストならありますが、きわめて客観性

の低い質問で、よくわかりません。一応（９）については回答しましたが、そもそも地域で誰がどのように困っているのか、はたからみて把握は困難です。一人一人からアンケートをとることで何が困っているのか、そしてそれに対して、いつどこで、誰が、何ができるか、どのような対応のための組織が望ましいかが考えられると思います。たとえば足が悪い人におてつだいたいとおもって働きかけても、かえって歩くことがいいこともそのひとにとってはあります。そのようなたぐいのことがたくさん予想されます。望んでない支援、独りよがりの支援やボランティアではなく、心や体に合わせて自活できることを支援したい。そのために実態把握は必要と思います。

（一点）

・ 町会の活動を積極的にしていないので良くわかりませんが、何を望んでいるのか、どうしたら良いのか、先輩役員から勉強していきたいと思います。

（一点）

・ わからない！

（８０～８５点）

・ 支援者の増員。

（６０点）

・ 自助努力をする考え方を持つ。地域の住民同士の絆を強くする。

（５０点）

・ 参加を促すこと。参加を支援でなく、自立すると言う認識をもって頂く事。

（８０点）

・ みんなの意識。

（４０点）

・ 高齢者が気軽に交流する場所があると良い。

（７０点）

・ 希望は１００点ですが、老人もそれなりに努力。若者も少しの手伝いで１００点に近づくのでは。

（７０点）

・ 若者の協力。

（９０点）

・ 在宅福祉委員会等の見回りの定期的な活動やパークゴルフ、カラオケ等の活動は充実しているが、話したい人がいつでも来て話ができる場所がないことや、高齢者と交流している方がけっこうな年齢層（６０代）で、若い方が少ないことがあげられると思う。

（５０点）

・ 支援をする側が健康で、いつも、気配りが出来るような心情で暮らしていけることが、まず、一番大切なと思う。いつも、気軽に声かけが出来るような環境作りをしていけるといいなあと思います。

（７０点）

- ・ 支援活動に参加できる年代の方が少ない。(50代60代)
集まりになかなか出てこられない高齢者(足が悪いとか、階段を登れない等)への支援。
地域の活動に参加することを拒否する方への支援の仕方。
(70点)
- ・ 高齢者の閉じこもりを可能な限り少なくすること。そのための交流会、茶話会の回数を多くする。
(80点)
- ・ 若い人の参加。
(90点)
- ・ 閉じこもりを少なくすることだが、本人が積極的に他人の中に入ってこれるようにすること。しむけること。
(80点)
- ・ これから冬を迎え、支援の手を待っているのは家の周りの除雪である。最近、特に多くなっている。除雪機などがあればいいと思う。
(70点)
- ・ 計画立案する人。お手伝いする人。資金。場所(私達の地域では、町会館がある)の整備
(ここにも資金が?)

<北東部第2>

- (70点)
 - ・ 満点になる(する)など、思いもよらない。高齢者も特に何をやって欲しいと求めているわけでもないと思う。我々の活動に付き合ってくれているのだと思うところでよいのだろう。ニーズに応えられるわけでもないし、実際に運営していくのも大変な努力がいるものだ。
(75点)
 - ・ 支援者の増加。高齢者自身活動に参加し、要望等発言する。
(30点)
 - ・ 老人クラブの会合等に参加して、顔なじみになってもらいたい。
(100点)
 - ・ これからも一所懸命活動していきたいと思います。
(60点)
 - ・ きめの細かい行政支援等がもっと必要。
(90点)
 - ・ 活動している人達も高齢者が多く、運営維持するのが大変な状況にあると思える。もう少し、気楽に運営する方法がないものだろうか?的を絞って企画すれば、興味のある人は回数が積み重ねて参加しやすくなるのではないかと思います。
(一点)
 - ・ 具体的に活動に参加して日が浅いので、自分自身点数をつけられません。今後、色々参加

させていただき考えていきたいと思います。

(60点)

- ・ 若い世代のボランティア活動の人数を、もっともっと働きかける事。

(50点)

- ・ 1. 気軽に交流できるような場所を設ける。
2. できるだけ高齢者が催しに参加できる広報活動をする。

(80点)

・ 積極的声掛け。遊びの場の提供。話し相手。交流の場の提供。ボランティア活動への参加の声掛け。

(90点)

- ・ 異世代交流がさらに活発すること。(子ども～高齢者、老若男女交流)
- ・ 他の関係機関との連携。

<北東部第3>

(50点)

・ 町会役員の意識改革の実施。現在町会役員の年齢は76歳と高齢であり、自らの生活の傍ら町会の行事を手伝っている現状で消極的。高齢者が仕事をしなければならない(70歳前後)現在の状況から、若い方(60歳)が町会役員にならないし、なれないのが現在の環境です。我が町会として、50点以上の支援は無理と考えております。

(60点)

・ あまりにも個人情報としておるのではないか。例えば、誰が個人の支援が必要かが一般の人が不明である。

(40点)

・ 私達の町会では会館がありません。そのことから始めなければなりません。個々人が思っても個人の事で目に入らないし話にもならない。小さな町会でも1件1件の個人情報をつかむ事は難しく思います。近所の見守りや安否確認でも受け入れる家族と嫌がる家族いろいろな家族がありますのでどこまで把握できるかだと思います。

(75点)

・ 高齢化社会となり地域社会全体も高齢化となり支援する側も高齢で、いわゆる老老支援なので若年層の方々の協力が必要になってくる。仕事に追われている若年層がいかに協力をお願いできるかが鍵となるのではないかと思う。

- ・ 会館が無いので大変です。

50点)

- ・ 同じ規模の似ている町会での先進的活動があれば参考にして進めればよいと思う。
- ・ 隣近所のコミュニケーションが普段からできていなければどんな活動もうまくいかない。

(30点)

- ・ 高齢者の暮らしで1番怖いのは独立した暮らしである。そのために「行くところがある」

「会いたい人がいる」「することがある」がキーワードとなり、ふれあいサロンが必要である。

- ・ 当町会には会館がなく、活動に制限がありますが集会所的な“サロン”が必要と思う。

(一点)

- ・ 点数化は「分母」の定義により変動すると思いますので回答できません。当町会は皆で集う場所がありません。町会運営の打ち合わせも四役会は会長宅をお借りし、平素の「協議」「連絡確認」等は、それぞれの玄関先も電話等での対応を余儀なくされています。こうした中で、各役員は可能な限りで皆さんが頑張っており、及第点程度かと思います。しかし、「求められる…」あるいは「理想とする…」町内活動と言われますと低い数値と言わざるを得ないと思っています。

(65点)

- ・ 町内会館が無いため必要な時に集まることができない。

(70~80点)

- ・ 民生委員が高齢者の住宅を外から見守っている程度の活動で訪問しては“いけない”ことに成っている自体がおかしいと思います。単身者(独居)の人は、話し相手が欲しいと申し出が有り、家の外で立ち話はしていますが…。

(80点)

- ・ 町会館ありません。町内の住民などが集まり活動がもっとできると思います。

(70点)

- ・ 支える側の人数が足りないのでできない。

(70点)

- ・ 積極的にボランティア活動ができるような環境やよびかけ、若い人たちに参加してほしい。

(60点)

- ・ いろいろな交流の場を多く持ち、積極的に接していく気持ちが大切だと思います。

(90点)

- ・ ボランティアの人員増。

(65点)

- ・ 地域住民の健康状態等、必要な項目を年齢階層別に実態調査をして現状を把握すること。個人情報なので無理とは思いますが現状を知らないと何が必要か、何をすべきかがわからない。

- ・ 今、これから携わっている者(町会役員等)は、そのほとんどが高齢者であることから若返りが必要。さらに、若年層に対して地域住民の自主的活動、互いに助け合い支えあう「地域包括ケアシステム」への啓蒙、意識高揚が必要である。

(40点)

- ・ 調査票に対する件、100点満点は無理かと思います。

(30点)

- ・ 町会会員ができるだけ参加しやすい様な環境作りが必要。

(50点)

- ・ 高齢者の方々の環境が様々な様相を持たれているので100点満点にすることは不可能だ

と思います。これまでの短期間で感じたことは、高齢者の方々、その方を支えている御家族の方の目線で会話していると何らかの安心感を与えられるのではと思います。大切なことは、支える側の自己満足的な意識改革が必要不可欠ではないか。

(70点)

- ・ 当町会では、色々なことをしているのですが人手も足りないし、お年寄りも多いのでなかなか思うようにいきません。もう少し若い方々が参加していることを願っています。

(30点)

- ・ 町会役員の成り手不足と高齢化対策。
- ・ 民生委員、在宅福祉委員との情報交換、連携。
- ・ 町会加入率向上対策。

(90点)

- ・ 足が不自由になってくると、出歩く事に不安を感じてくる方が多くなっていくので、目的場所まで送迎できればいいのですが、そこまではなかなか実行できないのでは…。

(50点)

- ・ 支援の担い手も高齢者になり担い手自身も支援が必要となってくるので若い人も支援の担い手になってもらいたいが、働いている人にはちょっと無理な気がする。

(30点)

- ・ 活動を支える人材の発掘。(町会活動の場合、役員が高齢の為)
- ・ 町内に居住する高齢者の把握。(実態がわからないので活動した時取り組みづらい)
- ・ 若い世代の人との交流機会を設ける。

(50点)

- ・ 気軽に交流できる場。

(20点)

- ・ 何かの行事に出る時は隣近所の車のある方が2、3人を連れてきてくれると出かけやすいし、話も出来ると思います。
- ・ 周りの人達に対して無関心でなくお互い声をかけるようにする。
- ・ 町会の行事や講演等は町会たよりを出して周知するようにしている。

(80点)

- ・ 比較的若い担い手が増えること。

(一点)

- ・ 当町会は益々高齢者が増加していくと予想されます。心掛けとして、お互いに見守り・声掛け・挨拶を重ねていくことが大切ではないかと思われれます。以上のことは、どの町会においても高齢化が益々進み大事なことでないかと私は考えられます。

(40点)

- ・ 組織の確立と指導者の確保。
- ・ 高齢者等の事業への積極的な参加。
- ・ 予算の確保。

- ・ 安定的に実働する人の確保。
(60点)
- ・ 若い人の町内活動の参加。
- ・ 年々役員の高齢化。
(75点)
- ・ お年寄り、子ども達、若者等の地域交流を多くしたらと思う。
(50点)
- ・ 地域に「つどいの場所」が必要。
- ・ 実働可能な若い役員が増えること！！
(10点)
- ・ 世話役員が高齢で70歳以下の世話役人が必要。
(80点)
- ・ 常に声掛けをし、活動に参加してくれるよう努力する。
- ・ 両隣のコミュニケーション。
(50点)
- ・ 町会にサロンの出来る集会場が必要。現在少し離れた場所を借りているので必要。
- ・ 外出の困難な方に話相手（支援）出来る人がたくさんいると良い。
- ・ 気軽にお互い助け合いの心開ける町会にしたい。
(80点)
- ・ 町民の協力と集会所が必要。
(80点)
- ・ 近所の人達が1人でも多く目配りを
(70点)
- ・ 若者との交流や外出して、気楽におしゃべりや趣味などで交流すること。
(40点)
- ・ 人手不足なのでもっと若い人が町内会の活動に参加してくれたらよいと思います。「一度手を出すと抜けられなくなるからやりたくない」という声をよく聞きます。もっとたくさんの方が参加や協力しあえたら良いと思います。
(50点)
- ・ 町会活動に積極的に参加する人材確保と育成。
(80点)
- ・ 高齢者のなかにはまだよびかけに賛同しない、参加せずにいる。気軽に交流を持つことが必要と思う。
(50点)
- ・ その家庭の中までは入れないと思います。
(30点)
- ・ 役員も全員70歳以上ですので。高齢者支援については大変だと思います。

(50点)

- ・ 町会の役員も高齢者である。役員のなり手がいない。

(70点)

- ・ 空き家が多くなってきていますので、住まいを安価で提供できるシステムや若者が住みやすい環境が欲しい。
- ・ 町会の役員やボランティア活動を協力的に行ってこれる方が少ない。
- ・ 町会館が古いので、老人の集会場所のイメージがある。若者が集まりやすい素敵な町会館が望ましい。

(70点)

- ・ 町会の役員さんは70～80代と高齢化している。50～60代の役員を増やし、これからの世代にうまく引き継げるよう、町内会全体で活性化を図る必要があると思われる。このためには意欲、体力も大事な点と思う。

(80点)

- ・ 地域住民の交流。

(一点)

- ・ 高齢者を支える側（町会役員が高齢化して）が機能しない。
- ・ 町会単位で地域住民を何らかの形で、会館を開放して、自由に過ごしてもらいたいと考えておりますが維持して行くスタッフがいらない。

(70点)

- ・ 地域住民の交流を盛んにしていくこと。仕事を従事している人たちも可能な範囲で協力してくれる仕組み作りが出来たらよい。

(一点)

- ・ 支える側も高齢化が進んでいるので地域住民の協力、若い人の手が必要かと思います。

(80点)

- ・ 国の政策の不満を改善すること。

(70点)

- ・ 町会会館を拠点としての活動が主ですが、町内にあと2、3か所拠点があったら良いと思います。（歩行に困難な人でも近くなら参加できるのでは？）

(0点)

- ・ 協力する人が少なく町会で何かしようとしても役員の負担が多くなり結局のところ何もしない事になってしまう！何が必要かと？参加する人の協力・ボランティアだと思います。

(一点)

- ・ 当該町会で特に高齢者を対象にした活動はしておりませんので点数をつけることはできません。種々と役員会等で話し合いをするのですが、実行までに至りませんのが実態です。

(一点)

- ・ 町会で行える支援は限度があると思うので函館市として市政の充実、目配りがあってでなければ100点満点にすることなどアンケートをとること自体不自然と思う。

(一点)

・ 町会会長の助っ人（ボランティア精神のある方、体力のある方、いろいろな技術・資格を無料提供していただける方）

(60点)

・ 戸数の少ない町会活動と運営のために、交通機関の少ない町会行事を容易にするために、送迎中型バスを町会単位で借り入れ可能な体制を検討してもらいたい。

(80点)

・ 町内会行事にいつも来てくださる方以外にも、もっと沢山の方に参加していただけるよう、普段から声掛けやコミュニケーションをとる事が必要だと思います。

(一点)

・ 近所の方々の普段からのコミュニケーションが大事で、それが設立していると、何においても良い方向にいくのではないのでしょうか。

(70点)

・ みんなで協力しなければならないと思う。

(70点)

・ 高齢化が顕著であり、町会行事や他の事業について参加者数の減少や固定化が見られる。連絡や参加依頼を促したり、実情の把握に努めるが「個人情報…」という事が「負の方向」に働き、諸活動をはじめ他の事業の発展・発達に大きな影響を与えている。

・ 市をはじめ諸機関との連携・情報の共有を積極的に進められるようにしたい。

(70点)

・ 各関係機関の密な連携・支援。

(80点)

・ 地域の高齢化が進行しているなか、個人情報によることが弊害になり状況を把握できない現状であり、もっと市、地域連携室等（民生委員も含めて）と一緒に情報を共有できるように組織化したい。

(75点)

・ 各団体の支援・協力体制が必要である。

(75点)

・ 町会の動ける範囲（やれる事）に限界があり、他の機関（民生委員・福祉委員・市など）の大きな支援と連携が必要。

<北部>

(60点)

・ 若い支援が必要。

(70点)

・ 若い人が必要。

(30点)

・ エゴを排し、他者への思いやり。若者は高齢者にやさしく、学べることは学び、高齢者は若い人を育てて行こうとの開かれた大きな心。両方の交流を積極的に心がけられたらと思います。

(70点)

・ 100点満点にするのは難しいと思いますが、それぞれ個人的近隣とのコミュニケーションがなくなり高齢者は、それなりにケア等週に何回か行っているようです。港町も高齢者、役員の方もようになってきてます。でも自分なりに協力したいと思います。

(60点)

- ・ 若手、退職した人達が町会活動に参加すること。
- ・ 自己の趣味などを楽しむ他に、ボランティアに参加する気風が必要と思う。

(75点)

- ・ 若い人で手伝ってくれる人の確保が必要。

(70点)

- ・ 個人が働いているため100点満点はむずかしい。

(0点)

- ・ 町内に住んでいる人達との話し合い、何かの行事に対する町民の手助け。

(70点)

・ 町会役員のなり手がいない。役員の高齢化が進み、少ない人数で運営しているため、現状を維持していくことがギリギリの状態である。活動の枠を広げることは難しいと思う。若い世帯に町会活動に関心を持ってもらえるよう、子ども向けの行事を年2回行い、人材確保に努めている。

(60点)

- ・ 男性の参加が必要。

(一点)

- ・ 若者の参加が必要である。

(60点)

- ・ 高齢者生活、助け合い活動に理解と協力をしてくれる若い人たちと市との協力！！

(80点)

・ うちの町会は面積が広く、何か行事に参加するためには、徒歩だけではその場に行けない方も多いと思う。茶話会などでは福祉バスも走らせているが、その他の時は足の確保が難しいと、集まりの参加へも二の足を踏んでいるのではないかと感じる。

(60点)

・ 向三軒両隣の交流を是非復活させていきたい。特に、声を掛け合う、気軽に声をかけ合うことに取り組んでいきたい。

(70点)

- ・ 高齢者が高齢者を見ている現状に思える。もっと若者が手伝ってもらえればと思う。

(40点)

- ・ 町会行事に参加し、家族の協力も必要である。

(70点)

- ・ 高齢者と支援者との交流。

(70点)

- ・ 高齢者がどのような支援を必要としているのかを把握すること。高齢者の支援をしてくださる方を増やすこと。

(70点)

- ・ これからはますます超高齢化時代を迎える事になると思いますが、その対策はありきたりで先が見通せません。長寿大国日本で600万人が一人で老後を過ごしていてその4割が生活保護以下の年金収入。望まないのに下流老人においやられてしまう現実。老後生活が立ち行かない社会のありかたに疑問を感じてしまいます。福祉は平和でなければとも思いますし、政治とも無関係ではあり得ません。それらを踏まえたとえ、困難であっても町会のありかたとして高齢者に寄り添い、どう支援してゆくべきなのかが今問われていると思っています。高齢者が集う敬老会、茶話会、世代交流等をきめ細かく立ち上げ、出席できる場づくりの活動、高齢者の安否の速やかな確認を推し進めてゆく本気度が何より大切かと感じています。地域にある企業などにも呼びかけをし、町会役員と連携し一体となった取り組み等できないものでしょうか？

(50点)

- ・ 高齢者が気軽に外に出て交流すること。
- ・ 町会が食事会やその他高齢者が外に出て交流する場をもうける。行事を増やしていくこと。

(一点)

- ・ 以前、高齢者の買い物調査を行いました。結果として近隣に住む子どもたち、兄弟姉妹、親戚等が週に一回や月一回来て買い物をしていることが分かりました。他人に家の中の事まで立ち入ってほしくない様子の方が多かったので、町会としては見守り活動を主にしています。

(50点)

- ・ 小生も高齢者故に、町会から声がかかれば何かと参加してご協力したいと思っています。が。

(60点)

- ・ 高齢者が気軽に集まれるような行事、機会を計画することが大切だと思います。

(60点)

- ・ 日常の挨拶や声掛けから顔見知りとなり、高齢者の孤立化を防ぐ努力をする。

(75点)

- ・ まだ自分で好きな場所に移動できる高齢者には、健康体操や集団で交流できる行事をふやすか継続していく。体や頭を使って老化を遅らせる仲間づくりも必要。自分で移動できない方には、家庭訪問して最近の様子を話し合ったり、特に子どもや孫のことについて語ってもらい、生きていく目標を確認してもらう。どちらも外部との交流できる場面が必要。孤独感を感じさせないように。

(60点)

- ・ このような難題は、行政が考えることと思う。

(50点)

- ・ 若い人たちの町会に対する気持ちを持ってくれることが必要だと思う。アパートの多い町会は、なかなか町会に入ってくれない。どこの町会もそうだと思いますが、役員は全部と言っていいほど老人です。

(50点)

- ・ 今まで〇を付けてきたこれらの事に携わってくださる若い方たちの力が必要だと思う。あまり町会の事に関心がないと言うが、多分、自分たちの生活で目いっぱいなのだと思う。それに、私たちがここへ来た頃と違い、全ての物が整えられているから、例えば、インフラ関係は特に。町内はどこを歩いても明るいし、足元はいいし、だからあまりそれ程町会も必要としないのかも知れないが、できるだけ関心を持ってもらうために昔でないけど、両隣、むかひの挨拶等、小さな子供への声掛けなど、とりあえずできることからしたいと思うし、歩いていて同じ町会の人にはできるだけ頭をさげ、行事等に声を掛けて、誘うようにしたら、とりあえずできることはそれくらいだろうが、最初の一步がなかなかできないが・・・夢でしょうか

(一点)

- ・ 町会を老人クラブにすべきではないと思います。若い人たちが参加できる町会をめざす方向に行政が指導してほしいと考え、働きかけを望む。

(30点)

- ・ 若い人の支持率をあげる必要がある。
- ・ 若い会員が減るのを防ぐ方法、多々あるが、役員会で思案中です。

(40点)

- ・ 町内会活動自体が一部の会員（しかも役員も高齢化）のみでの活動になっている現状の中で、高齢者の助け合い活動を求められても、対応していける活力は現在の町会には無いと思います。また、最近の高齢者も、支援を受けるのを拒絶する方も多くなっている気がします。

(50点)

- ・ 避難行動要支援者支援制度の早期確立が基本と考えます。町会員はボランティアです。この調査に係る有給者は自らの考えを持ち、地域に入り込んで調査すべきだと考えます。

(80点)

- ・ 自宅周辺のコミュニケーション。お互いに、声掛けするよう心掛ける。周辺の気配り。

(50点)

- ・ 高齢者に対し付近住民が声掛けをし、いろいろな行事に参加するようにする。また、外出するにもバス停等が遠い等で外出を控えるので、行政の方でも運送手段を考えてもらいたい。

(60点)

- ・ 高齢者の人数が多いため、年齢制限をしなければ援助する側の手が足りない。高齢者が何を一番望んでいるのか、きめ細かく聞くこと。デイサービスに行っている人が、各人曜日が異なるので、たくさん参加難しい。

(一点)

・ 若い人の参加が何よりだと思います。ただし、昨今の傾向として「町会」に対しての意識もなく平気で町会費の拒否があったり、近隣との希薄さから、無関心さを多く感じます。高齢化が進むにつれ、役員を引き受けてくださる方も難しく「町会」の先細りを感じ当町会も解決策を模索しているところです。

(50点)

・ 一人ひとりの協力とまわりを思いやる心が大切だが、地域も高齢化が進み、なかなかまわりに力をかしてくれる力が弱くなっている。

(60点)

・ ボランティアをしてくれる若い人がいない。町会に加入する人が少なく、高齢化している。それら解決するには分かりません。

(70点)

・ 現在町会のお手伝いの方々は、高齢の方が多くなっていますので、若い方の手伝いで活動の輪が広がるのではと思います。

(90点)

・ 高齢者（特に男性）自身の社交性が必要だと思う。

(一点)

・ 当町会は役員がみな高齢者で若い人は数える程しかおりません。町会のお手伝いやボランティアが若い人が担うようになるともっと活性化すると思いますが、世の中不景気ですので自分の生活でいっぱいです。若い人が安心して地域に貢献できる様な社会になってくだされば良いのですが。

(50点)

・ 年々、高齢者数が増加しているが、高齢者の方々がもっと積極的に外に出て行こうとする気持ちが大切。

・ 町会の役員も高齢化になり、若い人たちがもっと町会活動に参加し役員になってくれることが大切。またそのために町会でも頑張っていますが、町会加入も減少しているので市のほうでもいろんなアイデアと助けを町会のほうに与えてほしい。

<東部>

(60点)

・ コミュニケーションしかない。

(80点)

・ 町内にいるほとんどの老人は、国民年金という少ないお金で病院代を払うのが精一杯と言っていると聞こえてきます。旧戸井町では、月1回の送迎バスで温泉に行っていますが、それを月3回位のペースで送迎バスを出すと、老人も助かるのではと思います。

(65点)

・ 高齢者との会話。

(50点)

・ わかりません。個人個人が、高齢者への興味を持つ事や、一人一人の意識の問題と思う。
又、参加して良かったと思える活動が必要。

(40点)

・ 会話。

(60点)

・ 人の減少により集まりの機会が少なくなってきている。2～3の町会をまとめる等、大きな集団にして行く必要がある。当町に限ったことではないが、町会の年齢構成として40歳以上に傾いている。函館市全体で、0、10、20、30代の人を増やして若年層と共に支えて行かなければならないと思う。

(20点)

・ よくわからない。

(40点)

・ 町会での会話交流がもっと必要だと思う。それによって、どのような活動を必要とされているかがわかると思う。

(一点)

・ 行政の指導 ⇨ アドバイス

(50点)

・ 高齢者が多いので、若者世代の力が必要。

(60点)

・ お金。

(60点)

・ わが町内会も高齢社会で年金暮らしの人が多く、人を思いやる気持ちがだんだん、うすれてます。年金で余裕ある生活できれば良いと思います。

(60点)

・ 100点満点にするのは、無理なことだと思います。高齢者であっても、一人暮らしで干渉されたくない人も居ると思いますので、私自身、新聞配達しながら近所での見守り安否確認をしております。

(50点)

・ 3世代や4世代と同居等、大家族家庭を作ることが望ましい。

(50点)

・ 隣近所との会話が大切だと思います。最近、町と同じで隣の人が何をしているのかも解らない時代になっています。昔は、ぼたもち、赤飯など作り、おすそ分けしたものです。

(30点)

・ 町会役員の意識改革。

(50点)

・ 町会活動に町民が参加することだと思います。

(40点)

- ・ 以上何点か提起したが、町会単独ではできないので、行政との協調は必要。

(50点)

- ・ 環境整備支援、趣味活動の支援等。

(50点)

- ・ 子供から高齢者まで、年齢に関係なく何か交われる機会が多くあればいいと思います。後は難しい質問です。町全体がいきいきする事によって、高齢者も生き生きできるのではないか。

(50点)

- ・ 活発な町内会活動。行政の支援。

(80点)

- ・ ボランティアさんの人数が少ないので、もっと協力者に参加して頂きたいと思います。

(50点)

- ・ 自分が各項目ごとに○印をつけた以外の項目が、全て充たされれば100点満点になると思います。

(10点)

- ・ 会員のボランティア活動に関する意識改革。

(10点)

- ・ 町会役員の協力。集会の交通手段の確保（町会でワゴン車などを持ちたい）。

(40点)

- ・ 地域住民の求めるものをつかんで、企画・実行することが必要ではないか。

(20点)

- ・ 興味を示す事業企画をして、参加を促しながら、意志の疎通を図り、地域活動につなげる。

(70点)

- ・ 地域全体で支えていく仕組みづくり。高齢者が情報を発信できる関係の構築。

(70点)

- ・ 普段からの声かけ運動。町会も福祉や運動など他組織（機関）との交流をし、勉強する機会を得、町会単独で出来れば良い。不便を感じている事柄を周知する。

(30点)

- ・ 高齢化と若い人が減少しているので無理だと思います。希望としては、鹿部町でおこなっている町内の病院、スーパーの送迎は、一人暮らしの高齢者は「助かります」と言っていました。これは鹿部町で車も用意して、人も雇っています。

(60点)

- ・ 敬老会でも参加しない高齢者がたくさんいます。それは、家族の理解と話し合いが為せていないように思います。いくら役員が活動しても難しいです。それと、漁業の地域なので高齢者も参加しないのかも知れませんね。お互いの話合いとか、心構えが大切だと思います。

<地位包括支援センター>

(こん 20点)

・ 時間の経過とともに、新たなニーズが生じるという視点を持って予測的に予防活動を行う。そのアセスメントが不十分だと感じる。100点満点には、私だけの力ではなりえない。つまり、全ての関係者、本人、公的機関も含め、問題点や、できていることの共有が必要。リーダーが不在である。

(こん 30点)

- ・ 活動する場が増える(歩いて行けるところにある)。
- ・ ボランティアを必要としている人と、ボランティア活動をしたい人のマッチング機能。
- ・ 活動状況(社会資源)を、介護・福祉関連職種の方に周知。
- ・ 参加する人の移動手段の確保。

(こん 50点)

- ・ 地域住民の意識と行動変容をさせるきっかけづくり。
- ・ 多世代の交流、色々な分野のネットワークづくり。

(こん 80点)

・ 圏域内の介護サービス事業所や社会福祉協議会や町会、民生委員や在宅福祉委員とのネットワークづくり。顔見知りになり互いに情報交換や相談できる関係づくりが今後一層必要だと思います。

(こん 70点)

・ 地域住民同士の交流や助け合いの促進。その実現のためには、地域住民・行政・関係機関の連携が不可欠だと思います。

(こん 55点)

- ・ 官民の一体感。
- ・ 町のビジョン(行政のビジョン)。

(厚生院 50点)

- ・ 地域で支え合うコミュニティづくり。
- ・ 高齢者が気楽に集える場所。相談できる場所。人。
- ・ 見守り体制の強化。
- ・ 支援できるボランティアづくり。

(厚生院 70点)

- ・ 町会の活動が上手くできていない所へ介入し、地域をつなげる。
- ・ 介入の拒否が強い人への支援方法を市や町会を含め、考える場が必要。

(厚生院 70点)

- ・ 社会全体で高齢者を支えるという意識を持つこと。

(厚生院 50点)

・ 町会役員や民生委員も熱心にボランティア等行っている人もいますが、ばらつきが大きい。「高齢者支援」への理解がきちんと周知できれば、地域支援の力はまだまだ強くすることができると思います。

・ 町会全体でも少人数での講話等で高齢者や認知症、介護予防への理解を深めていただき、地域発信での活動につなげられればと思います。

(厚生院 60点)

- ・ 地域(町会)による取り組みの差の改善(低いところのそこあげ)→全体を把握し、低いところへの具体的なアドバイス、提案があるとよい。
- ・ 元気高齢者の活動の場(ボランティア、有償活動)
- ・ 全体的な意識の底上げ(認知症理解、介護予防の視点、相互メリットなど)

(厚生院 50点)

- ・ 高齢者が本音でどう思っているのか、より理解が必要と考えている。(ニーズ調査を面接してすすめる等)

(厚生院 75点)

- ・ 地域住民の意識改革(意識変化)への働きかけ。

※ まだまだこれからは地域住民お互い支え合うという意識がある人となない人の差が大きい。介護保険導入後から、公的サービスで何でもしてもらえらるという弊害もあると思う。

- ・ 若い世代の地域活動への参加。
- ・ 小中学校や高校生への福祉教育。

(厚生院 70点)

- ・ どの集まりにもつながっていない高齢者の把握。
- ・ 社会とのつながりを維持するために、どのようなことができるか考えること。
- ・ 高齢者が集まる場の把握。継続するために包括ができることはあるか考える。

(厚生院 50点)

- ・ ケア会議等での顔のみえる関係の構築。

(厚生院 55点)

- ・ 元気高齢者の活動支援(意識や動機付け含む)。
- ・ 活動のための交通手段の確保。
- ・ 資金の支援や調達方法のアドバイス。
- ・ 活動の伝達(発表機会等)。
- ・ 多世代、多職性等の交流。

(よろこび 50点)

・ 町会役員や民生委員も高齢化している。支援の手も減ってきている。ボランティアだけでは限界がくると思います。低学年のうちにボランティア活動を学んでいく事が必要だと思います。

・ 地域のつながりが希薄化しており、近所づきあいは減っている。民生委員さんや町会役員さんを中心に見守りをしていただいているが、限界と考える。もっと地域全体で考え合い、交流できる環境整備が必要と考える。

(よろこび 60点)

- ・ 町会館がない町会には、会館の設置が必要と考える。会館がない地域では町会活動がなか

なか見えず、行事への参加も限られた方になっている。また、どの町会も担い手不足で今後に不安を抱いている。そのため、世代間交流が活発になるような取り組みを行い、担い手になる方の発掘にもつなげる必要があると思われる。

(あさひ 50～60点)

- ・ 高齢者が増える中、支援の担い手になる人がいない。若い世代への働きかけが必要だと思う。高齢者でも、前期高齢者に働きかけることができればよいが、60～70歳代は就労している方が多く、難しさを感じている。

- ・ 社協、包括、生活支援コーディネーターの密な連絡。

※ 現時点では、目的は同じでも連携が不十分で各事業がバラバラに動いている。集約されていない。市の委託事業なので市が仕切ってもよさそうなのだが・・・現場レベルでの連携強化。

- ・ 人材不足と関係者の高齢化、負担増加で悩む町会との連携。福祉に関係のない人をまきこむ。時間があっても役割がない高齢者が活躍できる場（サロンとか）をつくる。（受け身ではなく、発信できる人の発掘）

(あさひ 60点)

- ・ 全町会でサロンなど人が集まる場が必要と思われるので、そのための後方支援。高齢者が何に困っているのかを分析し、個別、地域課題を一つ一つ解決していく。

(あさひ 50点)

- ・ 他業務におわれ、アウトリーチできない。受け身の姿勢ではなく積極的にアプローチした上でのアセスメントが必要。また、支援を拒否する人へのアプローチを検討する必要がある。

(西堀 50点)

- ・ じっくりと事業に関われる時間的余裕。

(西堀 40点)

- ・ 民生委、町会、行政などのさらなる連携。市民への必要性の周知。

(西堀 50点)

- ・ 地域住民への福祉に対しての関心がもてるような取り組みをして、住民全体で高齢化社会を支え合う一員にならなければならないと思います。そのためには、函館市が高齢・児童・障害などといった福祉に対する本気度が試されていると思います。それから、高齢社会を支えていく人材（特に若い世代）の確保は、本気に必要と思います。熱心に頑張ってる方々の声が反映できるようにすることも大切ではと思います。

(西堀 40点)

- ・ 活動の種類を増やし、それぞれが望む活動に積極的に参加できる体制。

- ・ 高齢者の要望をできるだけ拾い上げていく。

(西堀 60点)

- ・ 地域同士の関わり合える機会（交流の機会）を増やす。

- ・ ニーズに合った体操や趣味、お茶会の集まりを増やす。← 小さな地区毎に。例えば、町会単位より小さい単位で。

・ 他にも、大きい単位で。今、通いたいけど通えずにいる高齢者が行ける、集まりの場（運動）を増やす。

（西堀 60点）

・ 各機関での連携を図り、集える場づくりの提案、企画。そのため、地域単位でまず発展していけるよう、地域の方々との関係性を持っていく。町会行事等にどんどん各機関で参加していき、つながりを得、活性化していけるよう一緒に考えていく。活性化のみならず、問題にも対応していけるよう、方向づけていく。つながりを保持しつつ企画、提案を発展させる。

（西堀 50点）

・ 近隣同士での、できる範囲での見守りや声掛け。参加しやすい町会活動。（以前からいる人達でグループをつくり、新規の人は入りにくいとよく聞く。）

・ ボランティア活動を増やす（除雪、買い物の代行、話し相手 等）。

（西堀 40点）

・ 民生委員と在宅福祉委員、仲が悪い。連携図りづらい。

（西堀 50点）

・ ニーズとサービス、ボランティア、地域活動のマッチング。

（西堀 40点）

・ 色々な活動を実行している人、何かお手伝いをしたいと思っている人、すばらしい特技や技術を持っている人、など魅力のある人材はたくさんいると思います。・・・点 点 点で・・・個々はつながりを持たず・・・地域を支える力にはなっていると思います。行政、医療、福祉もすべて！！！！

（社協 50点）

・ 旧町村は範囲も広く、行われているサービスもまちまちのため、一律に考えていくことが困難です。ほどほどにできているところは充実させていくことで良いと思いますが、何もサービスが提供されない地域には「自分たちで支え合う」という意識を持っていただくことが必要だと思います。そのうえで、地域の人材を育てていくことが必要なのではないでしょうか。提供されるサービスを利用するだけでは満足度（高齢者の）は低いと思います。

（社協 50点）

・ 地域の方のマンパワーが必要と思います。

（社協 70点）

・ きめ細やかな実態把握と住民ニーズに即した地域支援活動の実践。

・ 社協各支所とのさらなる連携の強化を図る。

<社協>

（70点）

・ 全市的な波及効果の拡大。

・ さらなる社会資源の活用。

・ 行政、社協、地域住民等のさらなる連携の強化。

(90点)

- ・ 様々な活動が行われている事を、高齢者や家族が知らないことが多いのではと思います。

(70点)

- ・ 市民の声を聞く。仕掛けづくり。コーディネート。

(50点)

- ・ 当事者意識・・・社協の基本的な性格として「中間支援」「地域支援」を担う組織であることが挙げられます。他の施設が医療機関で働く方は「直接支援」「個別支援」から入っているので当事者意識が強いのですが、社協は何も考えなくても業務が進んでしまうところがあり、オーダーメイドで創意工夫の施された仕事をするという視座に欠けるきらいがあります。せっかく介護保険事業を営んでいるのだから、もっと個別支援から事例検討を深め、地域支援に広がっていく専門性を身につける必要があると考えます。

(80点)

- ・ 高齢者が求めていることに対して、すぐに対応できるような関わり。
- ・ 閉じこもりがちな方々への声かけや見守り等の関わり 等

(70点)

- ・ マンパワーの確保。

(60点)

- ・ わかりません。

(80点)

- ・ より一層の地域との連携体制の構築。